

ひとりぼっちがたまらなかったら

寺 山 修 司 詩
大 中 恩 作曲

土 肥 みゆき

Summary

Hitoribocchi ga tamaranakattara

Miyuki Dohi

The collection of songs, *Hitoribocchi ga tamaranakattara*, significantly recalling the sound of the northeastern sea, was written by Onaka Megumi in two months after the death of Terayama Shūji on June 24, 1985. Much inspired by the poem "23" in Terayama's poetic work *Aisenaino aisanaino* (1968), Onaka ingeniously unified the passionate and intense lyrics peculiar to the poet with his own natural and elegant tunes. In this study, I would like to show how Onaka accomplished the task and created such a uniquely graceful piece of *Märchen* and romance, at once joyful and sorrowful.



コーラスをしている人たち——
まり練習に集ってくる人たち——
は、一般社会のオットメヤ、主婦
の仕事からやっとな解放されて練習
場へ飛んでくるのが普通だろう。
そこにはいわゆる「コーラス・キ
チガイ」という人がたくさんい
る。この「キチガイ」という言葉
だが、合唱をふくめて、どうも快
いひびきをもってよばれないのが
私には残念だ。日本人の生活環境
が、あるいは社会構造がそうさせ
るのか知らないけれど、一つ事に
こり固まるのを否定し、あちこち
に首をつっこんでいる方を貴重と
みる傾向があるようだ。そんなの
を教養が高いというのかも知れな
いがどうもおかしい。他人や周囲
にひどく迷惑をかけるのでなけれ
ば、キチガイ的情熱は、とおとい
と私は思う。社会人として一つの
仕事を持っている上にさらにもう
一つ、生命いのちをかけるような「な
か」を持っているなんて、たいへ
んにすばらしいことだし、そうい
う人をみればすぐわかるように、
ひじょうに誠意にみちていて純粹
である。

オオ ナカ メグミ
大 中 恩 年 譜

西暦	年 号	年齢	略 歴
1924	大正13年		7月24日 大中寅二（作曲家）・文子の長男として東京赤坂に生まれる。母の勤めている幼稚園に通い、両親の合作による童謡をうたう。
1931	昭和6年	7	4月 東京市赤坂区立氷川尋常小学校に入学。 2・3年の頃から霊南坂聖歌隊にボーイソプラノとして参加する。
1937	昭和12年	13	3月 同校卒業。4月 東京府立第十中学校（現西高）に入学。
1942	昭和17年	18	3月 同校卒業。東京音楽学校（現芸大）作曲科に入学。 大東亜戦争は既に始まっており 勤労働員で工場で働く。
1944	昭和19年	20	1944年—1945年の1年間、海軍予備学生として志願入隊。 海軍潜水学校で猛訓練を受け小尉に伍官。横浜の港湾警備隊に、機帆船の艇長として勤務。 一夜外泊を許され空襲警報の合間に水原節子さんと結婚。二ヶ月半後に終戦。
1945	昭和20年	21	9月 東京音楽学校作曲科を卒業。其の間、作曲を信時潔氏、橋本国彦氏に師事。
1946	昭和21年	22	4月 合唱団「P・F コール」を結成。
1955	昭和30年	31	6月 中田喜直、磯部俣、中田一次、宇賀神光利等と「ろばの会」を結成。こどもの為の音楽の研究を進め、現在に至る。其の間、東京・大阪・名古屋で発表演奏会を開く。7月 合唱団「P・F コール」解散。
1957	昭和32年	33	7月 自作の合唱作品のみを演奏する「コール・メグ」を結成し、北海道より九州に至る各地で、作品を演奏。ユニークな合唱団として名声を博す。
1958	昭和33年	34	第13回芸術祭受賞。
1961	昭和36年	37	1月 畑中良輔、岡部多喜子、中村浩子等の協力により、第1回「歌曲の夕べ」を開く。第16回 芸術祭受賞。
1965	昭和40年	41	1月 阪田寛夫と協作（おさの会）によるミュージカル「世界が滅びる」音楽詩劇「イシキリ」を、観世栄夫、市原悦子氏等の協力により発表。11月 これまでの合唱作品を年代順に分けて、コール・メグにより三夜連続演奏会を行う。12月 第20回芸術祭に合唱曲「煉瓦色の街」（阪田寛夫詩）により奨励賞を受賞。
1966	昭和41年	42	12月 第21回芸術祭に女声合唱組曲「愛の風船」（中村千栄子詩）により奨励賞を受賞。
1968	昭和43年	44	12月 第23回芸術祭に男声合唱曲「走れわが心」（伊藤海彦詩）により奨励賞を受賞。
1970	昭和45年	46	12月 第25回 芸術祭に混声合唱曲「島よ」（伊藤海彦詩）により優秀賞を受賞。
1971	昭和46年	47	11月 「おさの会」第2回発表会を友竹正則・成田絵智子氏等の協力により行い、ミュージカル「鬼のいる二つの長い夕方」を発表。東京・大阪・京都・神戸・名古屋で公演。
1972	昭和47年	48	3月より11月迄自作の合唱作品による、コール・メグ創立十五周年記念九夜連続演奏会を行う。
1982	昭和57年	58	第12回日本童謡大賞を受賞。
1987	昭和62年	63	30周年を期して「コール・メグ」解散。その後、「大中恩混声合唱団 Petit」を創立。新機軸により再び、大中作品の演奏活動を開始。
1988	昭和63年	64	混声合唱曲を主体として女声合唱曲・童謡・歌曲と旺盛な作品創作を行っている。
1989	平成元年	65	4月 紫綬褒章を受賞。

戦時下の「わたりどり」から30年

大中恩は大正13年7月、東京赤坂の霊南坂に生まれた。

アメリカ大使館の白い土塀に沿った裏路地から石段を降りた、もっと細い路地の入口にある二階家が生家だ。すぐ近くに赤煉瓦の霊南坂教会があったが、このキリスト教会が大中恩の人生に深く重なって、決定的な影響を与えることになった。

そもそも両親が結ばれたのがこの教会だ。父はまだ無名の作曲家で、教会のオルガニストと聖歌隊指揮者を勤めていた。母も同じ教会の付属幼稚園の保母であった。母の実家は当時の植民地の台北、父の家は大阪にあったが、郷里を離れてこの教会に働いている二人が結ばれて、前年の9月、関東大震災の2週間後というときに被災をまぬがれた教会堂で結婚式を挙げたのであった。

深山澄作詞、大中寅二作曲「子守唄」。——まるいまるい月が出た、という言葉で始まるのだが、白い満月に向かって睫毛の長い若い母親が祈りをこめる甘く哀しく宗教的で、しかもハイカラな曲だ。大正時代の夢みる理想主義を映したこの歌は、路地の二階家に生まれた赤ん坊を眠らせるために作られ、歌われた。「深山澄」は恩の母 文子の筆名であった。

当時は作曲では飯が食えないのが常識で、父の寅二は師匠の山田耕作の率いる日本交響楽協会（N響の前身、新響のそのまた前身）で打楽器を受持ち、合間に愛宕山の放送局や映画館（無声映画の伴奏）に出演したりで忙しく、母は幼稚園勤めだから、一人息子の恩は鍵っ子のはしりであった。少し大きくなると母のいる幼稚園に通って、両親の合作による童謡をうたった。

大中寅二が幼児のために書いた歌は、歌詞の高低アクセントを厳密に守り、かつ近代的な和声で書かれている。その二点で当時の童謡とは違っていた。ふだん息子に対して放任主義の父は、大中恩が流行童謡を歌ったり、そのレコードを欲しがったりすると猛烈に腹を立てた。日本的な旋法や鈍い稚拙な旋律・和声が、息子の耳を「濁らせる」のを恐れていたわけだ。だから子供の歌は山田耕作か、自分の歌の他はだめだった。母が内緒で買ってくれた流行童謡のレコードを、いきなりたたき割られたこともあった。

優しく美しい母は、一人息子を作曲家に育てたくて、ピアノのレッスンに通わせたり、そのための積立貯金を始めていたが、癪癪持ちで誇高い父の方は、息子に強いて何かをさせるようなことは全くしなかった。父が絶えず息子の耳に吹きこんだ教えといえは、
「親の言うことをおとなしくきくような人間にだけはなるな」

ということであった。だからピアノのけいこもいつのまにかやめてしまった。しかし日当りの悪い二階家は、教会から1分もかからぬ場所にあって、聖歌隊の人々のたまり場所になっていた。遊びにすれば、さんざん歌っていく。狭い家で逃げ所がないから、まるで合唱に浸って生きているようなものだ。匂いのいい、きれいな女の人たちに囲まれて、大中恩にとっては遊ぶことが合唱をすることで小学2、3年の頃から教会でも聖歌隊にまじってソプラノを歌うよ

うになった。当時の霊南坂聖歌隊は、寅二の作曲の弟子たちも混じってセミプロ級の力があつた。讃美歌では物足りなくて、一般の宗教家や大中寅二が書き下す合唱曲を精力的に歌った。教会の聖歌隊席は二階のギャラリーにあって少々行儀が悪くても目立たない。お姉さんたちが相手になってくれるし、両親もそこにいるから、ひとり家にいるより楽しかった。

赤坂の氷川小学校から、新設の府立十中（現西高）に進学した年に、中国との戦争が始まった。大中寅二の「椰子の実」が歌われ出したのはその前年のことである。かわいらしくてチャボと呼ばれた少年だった大中恩の中にキリスト教の信仰が燃えだしたのはこの時代だ。どうしても牧師になって伝道に献身せねばならぬと思った中学3年生の少年に向かって、ある日、「それだけが神さまに仕える道じゃないでしょう」と「忠告」してくれた人がいた。歳上の、美しい聖歌隊のお姉さんの一人であった。少年がひそかに憧れていたその人が、音楽家になれと勧めたのだ。何で従わない理由があるうか。大中恩が本気に音楽の勉強を始めたのはその日からであった。

東京音楽学校（芸大）作曲科に進学したいと父に申し出ると、寅二は初めて自分の意志で作曲をやりたくなった息子に対して、それからまる2年間、教科書など一切使わず、体系抜きの寺子屋式に、身体から身体へ吹きこむように和声学と対位法を伝えてくれた。

私（筆者）は、大中恩の従弟に当るのだが、戦争中の夏休み、背広型の音楽学校の制服を着た従兄の「メグちゃん」が大阪の私の家で弾き語りで作自の「わたりどり」を歌ってくれた夕方のことをよく覚えている。ねむの木がうす桃色の花をひらき、こんな美しいものを一つでもこの世に残して戦争に行ける彼が、うらやましくて誇らしく、また切なく思われるのであった。この歌には恋の匂いがあった。彼はまもなく海軍予備学生を志願し、少尉任官直前に20歳で結婚した。

戦後、私は大陸から復員して、東京へ出てきたその日に、彼のはじめたばかりのPFコール（コールメグの前身）の練習を聴いて打たれ、その場で入れてもらって、「わたりどり」を歌った。——それからちょうど30年経った。

彼はその30年間で、ただコーラスのために燃えて生きてきた。彼の合唱曲は言葉と切り離せぬ一体感が特徴だ。そして作曲活動と合唱団の育成ということも、切り離せず一つになっている。私などには好んで苦しみを背負っているように見えるのだが、合唱曲と合唱を切り離さないのが、小さい時から合唱に浸って成長した彼にとっての自然らしい。今はキリスト教から離れている大中恩が、私にはコールメグという教会の伝道者に見える。

（全日本合唱連盟発行ハーモニー21号より転載）

詩人、作家。小説「土の器」で芥川賞受賞以来、幅広い創作活動を続け、豊かな才能と詩的感受性を発揮した作品は評価が高い。1987年「海道東征」で川端康成文学賞。1989年3月、芸術院賞恩賜賞受賞。大中恩氏の従弟に当り、「海道東征」「うるわしきあさも」「あの影は渡り鳥」等の小説で、大中氏の事を細やかな愛情をこめて語っている。

コール Meg は、日本でたったひとつのコーラスである。もちろん、日本全国には、数えきれないほどの合唱団がある。しかし、コール Meg はたったひとつしかないのである。

作曲家 大中 恩の作品しか唱わないコーラス。

作曲家 大中 恩の指揮でしか唱わないコーラス。全ステージを必ず暗譜で唱うコーラス。

こんなコーラスは日本中探してもコール Meg しかない。

作曲家に直結しているコーラスなんて海外にもちょっと類がないのではないかな。

ミュンヘン・バッハ合唱団は、確かにバッハの作品しか唱わないが、別にバッハが棒をふっているわけではない。すでにあるバッハの作品を専門的に研究し、愛好し、唱っているだけのことだ。日本の FMC 混声合唱団が、パレストリーナを専門に唱っているようなものである。

すでにこの世にいないバッハやパレストリーナばかりに入れあげている団体があるのだから、まだ生きている作曲家の作品ばかりを唱っても、それはちっとも不思議ではないのだが、バッハやパレストリーナはすでに評価が定まった作曲家であるのにくらべて、生存中の作曲家は、これから先、どんな曲を書くか見当がつかない。それをミズテンで買おうというのだから、よほどのほれ込みようだといわねばなるまい。ともかくメーカーと消費者とが直結しているのである。その社の製品しか食べないという消費者が集まっているのだから、メーカーにとってはこれほど有難いことはない。それでいて消費者側も大満足しているとあては、まさに万々歳である。

もっともこの団体は、消費者側、が自発的に組織したサークルではない。メーカー、の息がかかった団体である。メーカー、にとっては、まさにかけがえのない消費者集団であり、これに莫大な期待をかけるのも当然だ。だから資本投下、も並々ではない。全財産、をブチ込んでも惜しくない風情である。ところが、受け手の消費者、たちが、これをちっとも負担に思っていないのが不思議なくらい。

まるで、自分たちがそれを待ち受けているかのように積極的な姿勢を示す。コール Meg の音楽を理解するには、まずこういった、世にも不思議な労使関係を知っておく必要がある。

第15回の定期演奏会を1週間後にひかえた昨年11月末のある夜、私は Meg の練習所を訪ねた。六本木に近い三河台町、東洋英和女学院の同窓会館東光会の二階がホーム・グラウンドだ。玄関先には、男の靴、女の靴がきれいにそろって脱いであり、ツルツルすべりそうな板の間を、通って二階へ上ると、練習所の部屋のトビラに、大きな張紙がしてある。

「すこしでも早く来るよう努力しましょう、

遅刻者に対する戒めであろう。

「コーラスはそろったところに終りなり、

これはアマチュア・コーラスの練習風景を皮肉った川柳だが、確かにアマ・コーラスの最大

の悩みは、人集め、そして遅刻防止である。これさえできれば、演奏会の半分はまず成功したようなものなのである。

コール Meg は、このような世間並みの悩みからは、かなり遠い存在のはず。週2回の練習日にはほぼ全員がバッチリ集まる。それでなお、このような張紙がでるのだから、その厳格さが推しはかれる。

ドアを細めにあけてのぞくと、はじけるような歌声が、なかから飛び出してきた。新作の組曲、「氷山は力もちだ」(札幌盲学校生徒たちの詩による)の練習中。ピアノの三浦洋一さんが踊りあがるようなゼスチュアで弾いていた。

演奏会が近いから全員暗譜である。百を超えるランランたる眼が指揮者の大中さんに集中する。眼光、まさにケイケイ、もの凄い形相である。並みのコーラスを見つけている人なら、まずこの気迫に気押されてしまうだろう。細い眼をいっぱい見開こうとする女性、長髪をふり乱し全身で唱おうとする男性、せっかくの美貌を、惜しげもなく台なしにして顔じゅう口だらけにして唱う女性。かみつきそうな形相が、ときとしてたあいもなく笑い、悲しみにうち沈む。歌がそれを要求するからだ。

もっと面白いことは、それに輪をかけたゼスチュアや表情を、大中 恩氏がみせてくれることである。ここで指揮者は単なる音楽上の統率者に留まらない。指揮者が合唱団に、まず音楽的な指示を与え、合唱団が生産した音楽を指揮者が感受して、もう一度再生産する。指揮者と合唱団との相乗作用が、さらに新たなエネルギーを生みだしてゆく。指揮者は、まず指揮者であり、そして演技者であり、さらに宗教的な導師でさえある。

生きた眼、眼。その眼が大中恩を射通し、すがりつき、求め、祈り、反発し、いたわり、微笑みかける。不思議なことに、きのうやきょう入団したばかりの新人までがこの顔になってしまう。よその合唱団では、口をすっぱくしていても、なかなかできないことなのに、このコーラスでは、やりとげてしまう。生きた人間のなかに混って、ただひとりだけ`死んで、いるわけにはいかないものなのか。逆に、みんなが死んでいるなかに入ると、自分ひとりだけ生きているわけにはいなくなるものなのであろう。

見ると、みんな胸に小さな名札をつけている。先生が名指しで注意を与えやすいということのほか、みんなが一日も早くたがいに知り合おうというのが主旨である。

`きょう見えない顔はだれでしょう、`みんなで声をかけ合って誘いましょう、

こんな張紙が、壁のあちこちに張られている。また入口の壁には全員の名札がズラリとかけられている。出席者は白札、欠席者はそれを裏返して赤札にする。ただし欠席届けのあった人は、その赤札の上に黒丸の印がつく。無届け欠席を厳しく峻別しようというわけだ。一般のアマチュア・コーラスで、ここまで厳格に規制している例は少ないだろう。その成果のせいか、ほとんどが白札。出席率は90パーセントを優に超えている。

練習がすむと今月のバースデーカードが配られる。このへんはちょっと`日曜学校的、だが、メグ先生からひとりずつに手渡されてみんな大喜びだ。コール Meg の家庭的な雰囲気はこんなところからも生まれてくるのだろう。

解散してから十数人の団員をつかまえて、六本木の喫茶店で、いろいろ話を聞いた。いつもならメグ先生にまっ先に伺うところだが「きょうはボクは遠慮するよ、と彼は席をはずして遠くの席に腰をかけた。

「そういえば、メグちゃんぬきで合唱団自体のことを尋ねられるなんて、はじめてじゃないかな、

団員たちは、ちょっとテレながらそんなふうに行った。

——ズバリ聞くけど、メグちゃんの曲しか唱えないなんて、つまらないと思わない？

「まったくそう思わない。先生が次から次へと新しい作品を書くんで、それを消化するのに精一杯。とっても他の作品まで手がまわらない」

——でも、世のなかにはバッハやメンデルスゾーンや、各国の民謡それに日本にもずい分たくさんさんの合唱曲があるんだよ。

「よそのコーラスが、いろんな曲をやっているのを聞いて、いいなと思うことはあるけど、自分でやりたいとは思わない」

「先生の作品だけで充分満足してるんです」

「先生の作品を、すべて初演できるのがすばらしい」

「私たちの体質が、そうなっちゃったのかしら。私、10年間唱ってきて、ときどき、私っておかしいんじゃないかしらと思うこと、あるんです」

「コール Meg の特徴は、いい意味でも悪い意味でも、ひとりよがりだということでしょうね。唱っている人たちは、結構いい気持になっているんだけど、それが第三者から見て、どれほどの共感を持ち得るかということ」

「ボクたちをみていて井の中の蛙のようにお思いになりますか？」

「でも、なぜほかの曲も唱わなければいけないんですか」

「メグをやっていて、まだ余裕があればやってもいいと思いますよ。だけど、現実にそんな余力はありません。先生の作品は、ひとつのヤマを越したと思ったら、また次のヤマがやってくるんです。それを乗り越えてゆくのに精一杯なんです」

——では、ほかの指揮者で唱いたいと思ったことはありませんか？

「思いませんね。いつか秋山和慶さんの棒で「煉瓦色の街」を唱ったことがありますが、さすがにうまいな、と思ったけど、やっぱりメグ先生の方がいいです」

「『ろばの会』、なんかで、たまに先生以外の作曲家の曲を唱うことがあるんです。そんなとき、どことなく曲が唱いにくいんです。暗譜しにくいんです。先生の曲ならかなり難しい曲でもスンナリ覚えられるのに、ほかの人の作品だとどうして覚えられないんでしょうね」

ともかく、これほどのほれ込みようがまたとあるだろうか。メグ先生は、まさに幸せものである。

しかしメグ先生自身も、それだけのことをしてきた。団員たちにいい音楽を与える以外に、じつにこまごまとした努力を払ってきているのだ。先生がコール Meg の練習を休まないことは有名である。月曜と金曜の夜のレギュラーの練習日は、他の仕事があっても絶対に断ってしま

う。各放送局のディレクターたちはすでにこのことをよく知っていて、この日の仕事は頼まないようにしているくらいだ。職業作曲家が、いかに自分のコーラスだからといって、一銭の稼ぎにもならないアマチュア団体の練習に皆勤するということは、たいへんなことである。休まないどころではない。練習所へ一番先にやってきてイスを並べる。最後に帰るのもメグ先生である。

団員ひとりひとりのことを一番よく知っているのも先生である。新入団のメンバーが、翌週の練習を休んだりすると、その勤め先の会社へ先生がヒョッコリ顔を出し新人を大いに恐縮させることがある。電話がかかってくることは、しょっちゅうだ。病気で休むと必ず見舞いにゆく。

こう書くと、メグ先生はまるで聖人君子のように見えるが、^{*}ところがところがそうじゃないんだな^{*}、そこがメグちゃんのいいところ、と古い団員はいう。^{*}病気見舞いに行くのは、女性団員だけ、なんてウサもチラホラでるわけである。……………後略

(合唱サークル45年2月号より転載)

昭和2年11月16日、京都生。同志社大学英文科卒業。音楽評論家。朝日放送解説委員室勤務。音楽クリエィッククラブ所属。全日本合唱連盟副理事長。温かい御人柄と感性豊かな話術。社会情勢に対する広汎な知識を背景として、情熱溢れる社会派の音楽批評家として知られている。著書『音楽を嫌いにする方法』他。

メグ先生のこと

優しくて、親切で、暖かく、団員の一人一人に細やかな神経をそそぐ、その愛情の深さは、はかり知れないものがある。コール・メグに命を賭ける男。それ故に、厳しさはこの上なし。時にはつめたく、がんこ。私達がいたらないと、練習の途中で帰ってしまうと云うおこりっぽい見本も示す。その純粋で清らかなたましいは、まるで気分の転換の下手な子供と同じ。私達は強く心を打たれ、ただただ反省するばかり。うれしい時も泣き、かなしい時もすぐ泣く、淋しがりや。豊かな感情の持主。6時キッカリに練習の始まるその瞬間、指揮者の気嫌を判断する時、一種のスリルを味う。今日は巨人が負けたからだめらしい……とか、はっきりよめないが、何となくよさそうだとか、こんなに気にする私達の心づかい、わかっているのだろうか。気嫌のいい日は、3時間の練習を笑いころげて終わってしまう。そんな楽しさにつられて、休まず、遅れず、週3回の練習に集まって来るみんな。集める方がバカなのか、集まる方がバカなのか、そんな事はどうでもよい。その魅力ある先生の性格の根源は、昔から変ることのないテレ屋の精神が貫ぬかれていることにあると思う。作曲家大中 恩というレッテルを人に感じさせたりみせびらかすことの絶対出来ない性格は、わざと自分をおとして、バカな事を言っは笑われ、笑う者にたえず優越感をサービスすることに努力をおしまない。……………後略……………

(1972年 九夜連続演奏会プログラムより)

歌曲 作品年表

作曲年代	題名	作詞家	拍子	調	速度標語など
	<ul style="list-style-type: none"> ・子供部屋 <ol style="list-style-type: none"> 1. びいぴ 2. 白梅 3. 麦笛 4. ペリカン 5. 五月のうた ・優しい四つのうた <ol style="list-style-type: none"> 1. 母 2. 花すみれ 3. 月見草 4. 子守唄 ・「北島万紀子詩集」より <ol style="list-style-type: none"> I. 春夜 II. 彷徨へる旅路に III. 波 IV. 桐の花 V. 夜想 	竹内てるよ	C C 2/4 C 2/4	D: G: G: F: Es:	中庸の速さで可愛く おそく優雅に やや急速に活気をもって ゆっくり夢のように 明るく急速に
		高村民子 浜野ふじ子 中野有子 高村喜美子	C C 6/8 6/8	F: E: F: Es:	Moderato Moderato Andante Andante
		北島万紀子	C C C C 6/8	F: Es: G: C: G→Es: →E:	Moderato 情熱をこめて ♩=60 力強く ♩=80 美しくほのかに ♩=66 心をこめて ♩=42
昭22 ～23	<ul style="list-style-type: none"> ・五つの抒情歌〔その1〕 <ol style="list-style-type: none"> I. ふるみち II. 思ひ出の山 III. しぐれに寄する抒情 IV. おもかげ V. ふるさとの ・五つの抒情歌〔その2〕 <ol style="list-style-type: none"> I. 淡月梨花の歌 II. ひとつ星 III. 翡翠 IV. わくらばに寄せて V. 幌馬車 ・思い出 <ol style="list-style-type: none"> 1. ごがつ 2. くりの実 3. 雪国の子 4. 濤 	三木露風 浜野ふじ子 佐藤春夫 光井正子 三木露風	C C C 6/8 C	E: G: G: A: c:	Adagio Andante Moderato Lento Andante
		佐藤春夫 浜野ふじ子 室生犀星 光井正子 西條八十	C 4/4 C C C	Es: E: E: Es: Es:	Andante ♩=60 Andante grazioso Andante Lento
		大野晴子	C 6/8 C C	E→Es: D: B: e:	Andante 清らかに 優しく懐しく ♩=52 ♩=64 静かに ♩=72 激しく余り急がずに
	片恋	北原白秋	C	e:	Adagio
	董	国木田独步	6/8	Es:	優しく
	夕づつを見て	佐藤春夫	C	G:	Andante
	たんぽぽ	三好達治	C	Es:	Andante
	人を思へば	"	C	C:	Andante
	小さきねがい	光井正子	C	As:	Moderato
	雨のしとしと降っている夜の詩	折茂郁子	C	Es:	Andante
	あなたとなら	"	6/8	F:	Moderato
	日影	野上彰	6/8	c:	Adagio

作曲年代	題 名		作 詞 家	拍子	調	速 度 標 語 など
		二十二才の歌	阪 田 寛 夫	C	C:	Moderato
1958	昭33	・五つの現代詩 Ⅰ. 広 場 Ⅱ. 骨 Ⅲ. さすらい Ⅳ. はたらいた人達 Ⅴ. 昨日いらっして下さい	木 原 孝 一 中 原 中 也 深 尾 須磨子 室 生 犀 星 "	C C C C C	g: h: es: C: B:	♩ = 64 ♩ = 108 ♩ = 64 Allegretto ♩ = 96
1967	昭42	・歌曲集「恋のミステリー」 風が囁く時 ひとつのレモン 三 月 お陽さまとキスをした 恋のミステリー	内 山 登美子	3/4 2/4 9/8 C C	d:→Ges: →D: G: G:→Des: →A: B: g:	Moderato Allegretto Andante Allegro
1974	昭49	あばずれ女の亭主が歌った	中 原 中 也	C	f:	Andante
1975	昭50	・歌曲集「月曜日の詩集」 しあわせ 橋 道ばた<靴やさん> 待ちあわせ 海 花屋さん ゆびわ	高 田 敏 子	3/4 C C C C 3/4 3/4	C: D: c: B:→G: F: F: G:	Moderato→Andante Andantino Andante Allegretto→Moderato →Andante Adagio Allegretto Andante
1977	昭52	ほおずき 朝ゆえに 歩くだけ 男 の 唄 きみ歌えよ ひとりぼっち じゃあね ほほえみ 私が歌う理由 かなしみについて 死 と 炎 まじめな顔つき あやつり人形劇場 春 虫 帰 途 声 月 日 旅びと 溜 息 海 もっと 木 霊 ふみきり すず虫	高 田 敏 子 谷 川 俊太郎 " " " " " " " " " " " " " " 吉 原 幸 子 " " " " " " 金 井 直 " " " " 高 田 敏 子 "	C C C C C C 3/4 C 3/4 C C C 3/4 6/8 C C C C 3/4 C C C C C	C: G:→B: c: h: F: B: C: e: f: e: g:→a: c: a: C: b:→es: c: c: a:→As: G: e:→H: c: G: c: C:→Es: D:	Moderato Andantino Moderato Andante Allegretto Andantino Andante Adagio Andantino Adagio Lento Allgretto Moderato Andante Andante Adagio Andantino Andantino Andantino Andante Andante Moderato Andante Allegretto Andantino

作曲年代	題 名	作 詞 家	拍子	調	速 度 標 語 など	
	木枯の夜	高 田 敏 子	C	d:	Adagio	
	白い花束	樋 詰 喜久子	6/8	Es:	Andantino	
	恋人たち	”	C	F:	Allegretto	
	海をみつめて	”	3/4	g:	Adagio	
	KISS	”	C	B:	Andantino	
	夜の翼	”	3/4	B:	Andante→Andantino	
	あしおと	平 井 多美子	C	a:	Adagio	
	くちなし	阪 田 寛 夫	C	h:	Andantino	
	ゆ め	土 田 藍	3/4	E:	Andante	
	あ い	”	C	Es:	Andantino	
	よ る	”	3/4	Des:	Moderato	
	鳩 笛	西 尾 君 子	C	C:	Andante	
	花の波	”	C	D:	Moderato	
1978	昭53	夜ふけのコーヒーのかおり	ゆきやなぎ れい	C	G:	Moderato
	な み	”	C	Es:	Andante	
	虹	大 和 ミエ子	C	G:	Adagio	
	苔寺の苔	”	6/8	D:	Andantino	
	僕はまるでちがって	黒 田 三 郎	3/4	d→E:	Moderato→Andante →Andantino	
	力	ま ど みちお	3/4	c:	Andante→Adagio	
	とおいところ	”	3/4	C:	Adagio	
	・歌曲集「夢色の風にのる猫」	熊 井 明 子	C	F:	Moderato	
	屋根裏部屋		4/4→ 3/4	D:	Andantino	
	仔猫のような		C	D:→Es:	Allegretto	
	猫が跳んだ		C	a:	Moderato	
	猫 は 海		5/8	G:	Moderato	
	かくれている虹		C	Es:	Andante	
	粉雪の舞う夜					
	・こどものうた曲集	高 村 喜美子				
	「こんな静かな晩は」					
	こんな静かな晩は		C	D:	Andante	
	はるのゆき		C	G:	Moderato	
	おやすみママ		2/4	F:	Andante	
	きょうみたいな日には		2/4	F:	Moderato	
	うみは…		3/4	F:	Andante	
	六 月		C	G:	Andantino	
	いいことかんがえた		C	G:	Allegretto	
	あじさいの雨		C	C:	Andantino	
	けんか		2/4	F:	Allegretto	
	さようなら ことし		C	C:	Andante	
1979	昭54	おしょうがつ	C	Es:	Andante	
	なみのあかちゃん		C	D:	Andantino	
	てぶくろ ろくぶて		2/4	c:	Allegretto	
	しろい ぼうし		2/4	F:	Allegretto	
	プルン プルン プリン		C	G:	Andantino	
	はまべ		3/4	D:	Andantino	
	おまどのそとは		C	G:	Allegretto	

作曲年代		題 名	作 詞 家	拍子	調	速 度 標 語 など
		ねむい あさ はなは…		C C	C: Es:	Andantino Andante
		風のまち	福 永 武 彦	4/4	g:→G:	Moderato
		猫	吉 原 幸 子	4/4	g:	Adagio
		をんな	〃	3/4	c:	Andante
		をとこ	〃	5/4	d:	Andante
		帰りそびれたつばめ	新 川 和 江	4/4	G:	Andante
		もう一つ心を	岸 田 衿 子	3/4	Es:	Andante
		ろうそくのように	村 山 洋 子	4/4	D:	Andante
1984	昭59 (発刊)	無 言	土 田 藍	3/4	Es:	Moderato
		歌を織る	高 村 喜美子	3/4	C:	Andantino
		そのことは	〃	3/4	g:	Lento
		風	〃	C	D:	Moderato
		あのうたは	〃	C	Es:	Andante
		木の秘密	落 合 恵 子	4/4	a:	Adagio
		ひばりのように	新 川 和 江	C	C:	Moderato
		恋の挽歌	樋 詰 喜久子	4/4	g:	Moderato
		風の街	〃	C	d:	Allegretto
		何か手伝うことはありませんか	河 名 千 絵	C	a:→d:	Adagio
		ゆきまどう夜	西 尾 君 子	C	c:	Andante
		恋 歌	〃	C	e:	Moderato
		秋の接吻	滝 口 雅 子	C	a:	Andantino
		そばにいてほしい	土 田 藍	6/8	c:	Andantino
1985	昭60	・歌曲集「この道をマリアと」 街角で 渚 病 夏のマリア 成 熟 道	村 上 博 子	C C C C C C	F:→Ges: h: c: d: B: E:→F: →f:	Moderato Adagio Andante Andante Andante Moderato→Andantino →Andante
		・歌曲集「ひとりぼっちが たまらなかつたら」 ひとりぼっちが たまらなかつたら てがみ かなしみ 汽 車 少女から神さまへの ? マークつきのお手紙 永遠にあこがれたら 幸福が遠すぎたら 海がすきだったら	寺 山 修 司	C C C 12/8 C C C 3/4→ C	F: As: C: a: Es: Des: Es: g:	Andantino Andante Moderato→Andantino Andantino Moderato Andantino→Andante Andantino Lento
		もんだいは ヒスイ Jade		12/8 3/4	d: Es:	Andante Adagio→Moderato

作曲年代	題 名	作 詞 家	拍子	調	速 度 標 語 など
	ひとり		2/4→ 6/8→ C	B:	Allgretto
	世界のいちばん遠い土地へ		C	c:	Moderato→Adagio
	ある日		C	B:	Lento
	かなしくなったときは		C	D:	Andante
	海の起源に関する一章		C	F:	Allegretto
	見えない花のソネット		6/8	a:	Andante
	けむり		C	g:	Lento
	恋のわらべ唄		2/4	C:	Moderato
	半分愛して		C	c:	Adagio
	種 子		6/8	Es:	Moderato
	劇 場		C	a:	Andante
	ぼくが死んでも		C	e:	Andante
	忘 却		6/8	As:	Andantino

作品の特色

176曲（1985年前半の作品迄）

	歌曲集の曲も1曲と数えてすべての曲									
速度標語	1) 速度標語と発想標語がともに日本語のもの・・・5（「子供部屋」の5曲）									
	2) メトロノーム記号だけのもの・・・5									
	3) メトロノーム記号と発想標語（日）が、併用されているもの・・・6 例 情熱をこめて ♩=60 優しく懐しく ♩=52									
	4) メトロノーム記号と発想標語（日），速度標語（日）が併用されているもの・・・1									
	5) 発想標語（日）だけのもの・・・1									
	6) 速度標語（伊）と発想標語（日）が併用されているもの・・・1									
	7) 速度標語（伊）と発想標語（伊）が併用されているもの・・・1									
	8) あとはすべて速度標語のみである。特に1967年以後は日本語及びメトロノーム記号は、使われていない。									
	Andante	49	Moderato	35	Andantino	28	Adagio	18		
	Allegretto	17	Lento	7	Allegro	1				
拍子	・ $\frac{4}{4}$121		・ $\frac{3}{4}$25		・ $\frac{6}{8}$15		・ $\frac{2}{4}$10			
	・ $\frac{12}{8}$ 2		・ $\frac{9}{8}$ 1		・ $\frac{5}{8}$ 1		・ $\frac{5}{4}$ 1			
調	・ Es:	23	・ G:	22	・ F:	18	・ C:	18	・ D:	14
	・ c:	14	・ g:	10	・ B:	10	・ a:	10	・ E:	7
	・ e:	7	・ d:	7	・ As:	4	・ h:	4	・ Des:	2
	・ f:	2	・ A:	1	・ es:	1	・ b:	1		

（伊）・・・イタリア語 （日）・・・日本語

子守唄

女屋 靖子 作詩
大井 忠 作曲

Andante

と おくろにえる きてきのおとは あきなひにさの

こもりた - (が)かきよる なまがやてさ まみなのみずだけ

rit. a tempo

まぐさめて - そととこへ いくとく やま(い)やま(い)

1988年4月14日夜半

直筆の楽譜

1985年後半より —— 未出版歌曲 (50曲)

1985年		1988年	
海から来た	新 川 和 江	風の中のふたり	銀 色 夏 生
マスカレード	落 合 恵 子	ふたりの胸のなかに	土 田 藍
海の魚	川 添 エイコ	好きになって	女 屋 靖 子
きのうまでの愛	土 田 藍	無言の愛	女 屋 靖 子
石の扉	川 添 エイコ	銀の雨	女 屋 靖 子
隊 商	川 添 エイコ	時はいつも	女 屋 靖 子
去ってしまった人	川 添 エイコ	かなしいですか空の色	女 屋 靖 子
かぜとかざぐるま	岸 田 衿 子	あなたはおとな	女 屋 靖 子
髪 型	水 原 エ リ	子守唄	女 屋 靖 子
水色のときめき	おおた 慶 文	さよならしたあと	女 屋 靖 子
だれかがハモニカふいている	阪 田 寛 夫	きみは少年	女 屋 靖 子
夕方になると	阪 田 寛 夫	なんて素敵な夜でしょう	女 屋 靖 子
野にも海にも	新 川 和 江	涙	中 村 浩 子
1986年		あなたは今	宮 下 俊 也
夕やけ	阪 田 寛 夫	1989年	
降り積む雪	土 田 藍	つのる想い	土 田 藍
白いホウタイ	き の ゆ り	おじさまお茶を飲みましょう	江 間 章 子
小鳥のように	内 山 登美子	借りてきた猫の子のように	江 間 章 子
愛	内 山 登美子	いまは離陸のとき	江 間 章 子
トルコ桔梗	内 山 登美子	箒にのった魔女	江 間 章 子
1987年		さわ さわ さわ	江 間 章 子
輝やかなとき	土 田 藍	あなたに	江 間 章 子
そんなに悲しまないで	熊 井 明 子	鬼にわらわれてもいい	江 間 章 子
夢の風景	水 原 エ リ		
わたしが空に消えたあとで	き の ゆ り		
風 花	き の ゆ り		
あこがれ	おおた 慶 文		
さい果て	水 原 エ リ		
秋の雨は	戸 田 健 夫		
光の耳が聴く未来	青 木 景 子		

現代日本の作曲家の中で、それも戦後の若い世代で、旋律の書ける人はすくなくっている。殊に前衛派のひとたちにあっては、むしろ音響デザイナー的な、音空間のひろがりの中に、自己の場としての実験を試みようとする。

ひとつの見方として、この、生存ということすら危ぶまれている時代に、神経の昂ぶり感覚の鋭化している時代に、〈美しい旋律〉など、とても歌ってはいられぬ、という思想が一方にはある。

現代の危機感を見覚えさせ、その精神を喚び起こすためには、機能と声の上に書かれた音楽などは、全く〈ナンセンス！〉だという考え方である。彼等によれば、《機能と声》そのものが体制である。主音と属音という関係こそ、打破されなければならぬ。

音の機能性に、こうして背を向けようとするひとたちにとって、大中恩（めぐみ・1924・7・24生）の音楽は、その後衛生ゆえに否定的立場に立たざるを得まい。しかし、そういうひとたちも、次の事実をハッキリ見とどけておかななくてはならない。

1972年の3月、6月、11月の、それぞれの月に3日間ずつ、計9夜の《大中恩合唱作品による夕べ》が開かれ、彼のひきいる手兵ともいふべき「コール Meg」による連続演奏会が、大変な成功を収めたということである。

この「9夜連続演奏会」が何れも超満員の聴衆を集め、それも、この会のために北は北海道、南は九州から駆けつけた人さえもいたのである。

何がこのように大中恩の作品のもとに、遠くからも人が集まって来るのか？ 知人に切符を押しつけるようにしてやっと買って貰い、何とか一夜の演奏会の聴衆動員を切り抜ける音楽会の多い昨今、「メグのコーラスならば」という自発的な聴衆の存在は、ひとつの奇跡と云ってよいのだ。それはアマチュアである団員たちのPR（パブリック・リレーション）のためではなく、大中恩そのひとのヒューマン・リレーションにあると考えてよいだろう。

私と大中恩との出逢いは、彼が1942年東京音楽学校（現芸大）に入学した時以来である。人なつこい彼の、私は2級上だったが、学校の帰りなどいつも一緒に、ふざけてばかりいたものだ。終戦翌年、中支から復員した私は、大中君の新作のいくつかを歌う機会があった。

その頃、彼は「P・F コール」という合唱団を持っていた（1946年結成）、父君、寅二先生の所属する、赤坂霊南坂教会でよく発表会を開いた。1947年5月31日、この第3回発表会において、私は「ふるみち」「しぐれに寄する抒情」「ふるさとの」を、森繁子の伴奏で初演した。2年後、毎日ホールにおいて、「畑中良輔独唱会」として、前3曲に加えて、「おもかげ」を歌い、その飾らない、ナイーブな大中抒情が好評を呼んだ。

——大中氏の素朴な旋律を真正面から抱き込んで、しかも俗に墮さしめぬのは立派だった——（遠山一行氏評）という言葉もあったりして、大中歌曲は次第に聴衆を獲得して行ったのである。

《歌うは愛するひとのわざ》と云った、アウグスチヌスの言葉が、これら的大中声楽作品にびったりと寄り添って、何より強い実感を私に与える。歌を愛することが、人を愛することにつながって行くその真実の輝きが、人の心をいっぱいにしているのだろう。

大中歌曲の中では、「五つの抒情歌」の世界を超えて、意欲的手法をそれぞれの詩人にぶつけた「五つの現代詩」が、ユニークな境地を展いている。それまでの彼の手法の中に見られなかった音型リズムや和音の色彩的な扱いは、それ自体決して新しいものではないとしても、これらの詩の中で、その創意と新鮮な想像力の飛翔が見られ、今後、更に創造性に富んだ大中歌曲が期待出来よう。

これと同時に、大中恩の作品を理解するためには、是非とも合唱曲を聴く必要がある。中でも、大中恩の名を高からしめた初期の名作「わたしの動物園」(53年)は、阪田寛夫(彼のイトコに当る)とのコンビによる最初の作品であり、青春の坐折を、ひとつの距離の中に歌った名作である。(ビクターから作曲者自身の指揮によるレコード、SJX-1014が出ている。)このほか全国的に歌われているのは、「月と良寛」(宮地廊慧詩)、「花のある風景」(中田浩一郎詩)、「日曜学校のころ」(阪田寛夫詩)などの組曲があり、数えるいとまのないほど多くの合唱曲がある。

また阪田寛夫とのコンビで《おさの会》を作り、ミュージカル「世界が滅びる」(65年)「鬼のいる二つの長い夕方」(71年)、音楽詩劇「イシキリ」(65年)などを発表している。また「ろばの会」(中田喜直、磯部俣、中田一次などと1955年に結成)を通じて、子供のための新しい音楽を書きはじめ、64年に書かれた、組曲「五つのこどものうた」(バスのうた・サっちゃん・おとなのマーチ・くもさん・バナナを食べる時のうた)などは、全国の子供たちへのあたたかいおくりものとなった、すばらしい童謡である。

(SJX-1045日本歌曲全集14の解説より転載)

歌手。音楽評論家。作曲家。1973年、東京音楽学校声楽科卒業。沢崎定之、H・ザーハーベニヒに師事。モーツァルトの歌劇・ドイツ歌曲・日本歌曲の演奏家として第一線で活躍する。日本ビクター「日本歌曲全集」を編纂し、その解説は、長い演奏活動を背景にした適確さの上に、文学的にも格調高く緻密・華麗・明晰である。1985年、紫綬褒賞受賞。現在、東京芸術大学名誉教授。朝日新聞音楽批評家。

著書『演奏家的演奏論』『演奏の風景』『畑中良輔歌曲集』

合唱の現場から生み出されるアイディアの豊かさ

山 本 金 雄

大中恩は1924（大正13）年7月24日、東京生れ。1945年東京音楽学校作曲科を卒業。信時潔、橋本国彦に師事。卒業後すぐに1946年、アマチュア合唱団「P・F・コール」を結成、合唱曲の作曲や中田喜直らとともに、「ろばの会」を結成して新しい子供の歌の作曲をすすめる。1956年、「P・F・コール」を解散、翌年「コール Meg（メグ）」と改称し、自作品を発表する実験台、発表機関として活動し大中恩の合唱曲は誕生し、現在に至っている。

1965（昭和40）年の混声合唱組曲《煉瓦色の街》、66年の女声合唱組曲《愛の風船》、68年の男声合唱組曲《走れわが心》でそれぞれ芸術祭奨励賞を、また70年には混声合唱組曲《島よ》で芸術祭優秀賞を受賞している。

大中恩の作品は、師と父大中寅二の影響があると思われるが、声楽系のもものがほとんどで、童謡・歌曲・合唱曲の分野で活躍し、約250曲あまりにわたっている。

たいへん数が多いので代表的なものに限定すると、童謡としては《サっちゃん》があまりにも有名である。歌曲としては《しぐれに寄する抒情》などがあり、合唱曲としては、1953（昭和28）年の組曲《わたしの動物園》《海の若者》《秋の女よ》（いずれも混声合唱）、54年の混声合唱のための童話詩曲《ブーム・ブーム》、60年の女声合唱組曲《月と良寛》、62年の混声合唱組曲《日曜学校のころ》、64年の男声合唱組曲《わが歲月》、混声合唱組曲《鬼の子のうた》、それに前述した芸術祭の賞を受賞した《煉瓦色の街》《愛の風船》《走れわが心》《島よ》、それに67年の混声合唱組曲《遙かなものを》、1979年の男声合唱組曲《ヴェニス生誕》などがある。

旺盛な創造力をもち、現在でもいささかも創作力のおとろえぬ大中恩、その作風としては、あくまでオーソドックスな合奏のよさを充分に発揮しながら、一曲一曲へ何か新しいアイディアをとり入れ、たんに机上のものでなく「コール Meg」の演奏と密着させつつ、今日の大中恩の合唱曲を生み出したことである。黒人霊歌や賛美歌を思わせる重厚な作風の面が強い初期の作品から、しだいに現在の作品へと移っていくわけである。大阪弁をうまくつけた《わが歲月》のなかの《葉月のお月》や、《鬼の子のうた》のなかの《ふんどし》では、とかく異様な感じを抱きたくなる題名に対し、女声に〈ふんどし〉と歌わせても品を悪くさせない技法、クリスチャン大中恩にとうてい想像もできないユーモアのある軽妙な情感の《日曜学校のころ》など、いままでの合唱作曲家にない面が大きな特色として、大中恩の作風をつくっている。これからこの〈尽きぬ創造の泉〉で佳作をどんどん世におくり出してもらいたいものである。

合唱指揮者、音楽教育者。1920年生。1941年、東京音楽学校（現在東京芸術大学音楽学部）卒業。木下保・ノタルジャコモ・斉藤秀雄に師事。東京放送合唱団（NHK）、東京合唱協会等多数の合唱団を指揮。NHK全国学校音楽コンクール等の審査員。元千葉大学教育学部教授。社団法人全日本合唱連盟相談役。著書『指揮法入門と実習』他。

1981年6月1日（昭和56年）大中恩選集の現代こどもの歌秀作選「いぬのおまわりさん」が発行されました。これは、全国的にヒットした「サッチャン」（阪田寛夫作詩の作品）を中心に、34人の詩人による96曲の童謡集です。氏が作曲活動を始められた昭和20年頃から約10年を経た昭和30年に、磯部俣・宇賀神光利・中田一次・中田喜直の諸氏と「ろばの会」を結成され、当時の若い詩人、小林純一・まどみちお・柴野民三・藤田圭雄・宮沢章二氏等との協力によって生まれた初期の作品と、昭和52年以降、氏の自発的な仕事としての作品、即ち2つの時代のもので成り立っています。そして、カワイ出版の新しい企画として発刊された最初の個人の曲集であった事は、氏の童謡が、子供も大人も含めた全国の人々から愛され親しまれ、その上高い評価を得ている「証^{あかし}」であると思います。

1983年7月29日（昭和58年）京都烏丸御池のカワイ音楽ピアノセンターで、この童謡集の公開講座が開催されました。私が大中恩氏にお目にかかれたのは、この日が初めてです。

氏は東京音楽学校（現在東京芸術大学音楽学部）では1年先輩でしたが、戦中でもあり、学徒動員で海軍予備学生に志願し、終戦後間もなく復学されたものの、戦後の混乱期、昭和21年は9月の繰り上げ卒業となり、お出会いする事もないままに時は流れてしまいました。

当日伺った氏の第一の主旨は、「音楽は、いつも遊ぶ精神でやりたい。スポーツをすると共にプレイ（play）する気持ちでやっている。」ということでした。又、詩人阪田寛夫・宮沢章二・谷川俊太郎氏に魅せられるのは、「詩の行間に音楽を感じさせられ、歌にしてみたい空間のある事。」等、作曲家の貴重な発言も聞かせて頂きました。

その後、氏の指揮により受講生一同は数曲の童謡を合唱したのです。小柄な氏の全身が音となり、歌となり、軽やかなリズムとなり、その指先の舞うがままに恍惚の世界に導かれ、詩と音の自在の世界を遊び戯れる事が出来ました。

講座の最後には「いぬのおまわりさん」（さとうよしみ詩）を「ニャンニャン・ワンワン」と巧みに動物のなき声を加えつつ、軽妙に演じて下さいました。当時、氏は60才に近いお年です。しかし「歌のお兄ちゃん」と呼びかけたい様な活々とした若々しさと、子供の様な純粋さ、童謡詩に対する感性の鋭さが、「大中恩の音楽」と知りました。しかし講座の後の氏は、先程と異なり、口数の少い孤独感のにじむ寂しい御姿でした。喜劇役者の舞台裏をかいま見た思いが致しました。

何年か過ぎたある日、東京に於る御自作のみの演奏会の御招待を受けました。それには細やかなお心遣いが添えられ、私は初めて氏の作品の一夜を心ゆくまで楽しませて頂きました。

1988年5月28日（昭和63年）には、東京麻布一の橋のご自宅に伺いました。華かなシクラメンの花の色のスーツを召した奥様がお出かけになる処で、「今日は僕達の結婚記念日なのに、家内は関西に行くと言って……。」と、少し恨めしそうに前置きされながら、長時間に渡って、御自分の幼い日から現在に至るまでの「エピソード」や「コール・Meg」の事、「作曲」について

も午後の8時頃から東の空が白む午前3時頃まで、割に早いスピードで作品が生まれる事等、卒直にお話し下さいました。数多くのプログラム・こどものためのピアノ曲集「あおいオルゴール」まで頂戴してしまいました。何時か金沢に子供達のレッスンに行きました時、「大中恩って男の人ですか一女の人だと思っていた——。」吃驚した子供達に会いました。「小さなひみつ」「こわれた人形」「モグラのおさんぼ」等、題からも優しいお姉様の印象が強いでしょう。

お好きな作曲家は、と伺いましたら「チャイコフスキー」、お好きなお花は「堇」でした。初期の歌曲「優しい四つのうた」の中の「花すみれ」（浜明ふじ子作詩）と1958年頃の作品に「堇」（国木田独歩作詩）があります。特に後者は、歌曲84曲の内、たった1曲のみ日本語で「優しく」と記されています。初期の作品の一部には日本語で速度と発想標語が記され、他の作品は総て速度標語（伊語）のみしか附されていないのが、氏の歌曲の特色ですが、「堇」のみに「優しく」と日本語で記されたのは、格別のいとおしい想いがあるのでしょうか——。愛嬢にも「すみれ」と名付けられたと伺いました。大自然の中から紫の雫のように生まれた小さくゆかしい神秘の「花すみれ」は、特攻隊として出撃命令を受け、明日はその若い命を国に捧げて散る恋人に、唯一夜を契る「一夜妻」として詩われています。女の生き方も激しい変遷を辿りました。物質文明の栄えた今の世では、到底理解され難い、哀しくなるような純愛とロマンの世界です。人一倍テレ屋の氏が、当日私には一言も話されず、その同じ現実を過去に秘めていられた事を知ったのは、阪田寛夫氏が昭和54年12月「文芸春秋」150号に記された「あの影は渡り鳥」と名付けられた大中恩氏（文中タクちゃんとして登場）モデルの小説を読ませて頂いた時でした。

話は46年も昔の戦中に戻ります。「水原節子」涼しげな額と眉、黒い眼と魅力ある唇を持った美少女との出会いは、霊南坂の聖歌隊でした。当時は男性24才、女性37才という平均寿命しかない時代、幸福な将来など何一つ約束されていない時代に、二人は熱烈な恋愛によって結ばれたのです。氏が海軍予備学生から海軍対潜学校で猛訓練を受け、少尉に任官され、横浜の港湾警備隊に機帆船の艇長として勤務中、明日任地が決まる直前の一夜、外泊を許された短い空襲警報の合間に、鎌倉の民家を借りて結婚式を挙げられたということです。清冽な感動を受けました。「情熱の人・大中恩氏」の激しく燃える青春を美しいと思いました。お二人は19才でした。

当日お伺いした「生いたち」に就きましては、阪田寛夫氏の「大中恩の魅力」にゆだね、氏とは切り離せない「コール・Meg」に関しましては、合唱風景や大中氏に傾倒する団員の方々との対話を活々と再現された日下部吉彦氏の「コール Meg」にお任せしたいと思います。

恩氏の御父君は作曲家大中寅二氏で、私達は島崎藤村作詩の「椰子の実」（ラジオ歌謡2号）の名歌で親しんでいます。大中家は大阪の実業家でしたが、寅二氏はその実業を継ぐことなく両親に背いて、京都同志社大学経済学部在学中より、山田耕筈氏に師事し、内弟子として作曲家の道に進まれました。

しかし寅二氏は、恩氏には幼い時から音楽を叩き込む事は避け「親の心を裏切る位でなければ駄目だ。」と励ましながらも、御夫妻合作の童謡や、寅二氏指揮の霊南坂聖歌隊の美しいハーモニーで、常に我が子を育ててゆかれました。

小学2年の頃、お母様の手作りでしょうか、薄桃色の糸で「めぐみ」と刺しゅうの入った特別に小さい白いガウンをわざわざ作って貰われて、ボーイソプラノとして聖歌隊の一員とられます。

「聖歌隊のお姉さんは、どうして僕をこんなに可愛がるのだろう。」と、子供心に浮々しながら、女性に対して何となく甘えん坊の、又一方、気配りの行き届き過ぎる優しい氏の性格は、此処で育まれていった様です。

後年、作品に女性詩人が多く登場しているのも、この幼い時の環境によると思われます。

従弟の阪田家は、大正12年頃にハイカラなテニスコートが2面もある裕福な家庭であり、それに比べて、作曲家を父に持つ我が家はお金になさそうだし、親に苦勞させないように音楽をやる方がオルガンもピアノも本もあるからいいということも考えあわせ、又、ほのかな思慕の情を寄せていた聖歌隊のお姉様から「音楽は神様の声を伝えることが出来る素晴らしいもの。」という言葉に啓示を受け、本格的な作曲家への道が始まります。

以後2年間、寅二氏は我が子を誰にも任せず、真剣な指導を続けられました。1942年（昭和17年）、大東亜戦争も始まり、洋楽を求める者は敵国の音楽をする非国民と罵られる時代に、難関のしかも憧れの東京音楽学校作曲科に入学されています。

合格発表のあった次の日から、9度の発熱が続き、学校が始まっても仲々下がらず、入学出来なくなりそうになって、寅二氏が方々に頼まれたところ、教務課の先生で「椰子の実」が好きな方があり、好意をもって取り計らって下さったという微笑ましい逸話も残っています。

在学中は、信時潔²⁾氏、橋本国彦³⁾氏に師事されるのですが、阪田寛夫氏の「海道東征」より若き日の恩氏の面目躍如の授業風景を引用したいと思います。

先生はピアノに向かって腰かけ、僕たちは横に立ったきり、大てい中は腰になって自分や相棒の書いた譜面をのぞきこみながら、先生が意外に甲高い声で、文字通り口角泡をとばして喋るのを、相槌うって聞いている。先生は鉛筆をなめては、こういう進行はいけないとか、言葉への扱い方が軽すぎるとか、アクセントが違うとか——そのアクセントは関西育ちの先生の方が標準語と違っていたりするんだが——なめた鉛筆で直接譜面を直して行く。和声も直す。向うも気に入らないけど、こっちもそれが気に入らない。具体的にはもう覚えていないけど、ぼくがここぞと力をつくしてドビュッシー色の音——にはとてもならないけど、まゝそれをねらった、たゆたうような、うずくような、光と翳、とか傾斜、とかいった（つものの）ものを、先生はみんな取っ払って、ぼくにとってはつまらなく直す。話を聞いているとずいぶん幅広い人なんだけど、やっぱり直すとなるとバッハのコラールに戻るんだよ。まあ、学校とはそういうものだと思うけど、こっちも若気の至りだね。うちへ帰って、直されたところをぜんぶ消して元へ戻しちゃった。ぼくが程度が低かったから、先生の寸法に合わなかったんだろうけど……。 (後略)

卒業後、自宅が田村町のNHKに近く、仕事はここで始まりました。一方「P・F コール」を結成し指揮者となり、引き続き「コール・Meg」を1957年7月に結成し、作曲と演奏と指揮活動を一つの輪として黙々と30年間続けられました。月・水・金の練習日に、氏は無遅刻・無欠勤、一番早く練習場に現れ、一番最後に帰る無収入のアマチュア合唱団の指導者でした。1000

曲を超す合唱曲が生まれてゆきました。「土田藍」というペンネームで書かれた詩も、歌曲・合唱曲になりました。

合唱団員の固い絆は、「めぐちゃん（大中恩氏）の歌への愛」に支えられて、時には未曾有の9夜連続演奏会を実行され、「コール・Meg」は日本でたった一人の作曲家大中恩の作品しか唱わないコーラス・作曲家大中恩の指揮でしか唱わないコーラス・全ステージを必ず暗譜で唱うコーラス（日下部吉彦氏）として驚異的に続けられました。小柄な氏の何処に、秘められた強固な意志・情熱・創作欲がひそんでいるのでしょうか。

17才から80才という幅広い年令層に支えられた「コール・Meg 演奏会第44回」が、創立30周年記念演奏として、1987年7月11日（昭和62年）東京郵便貯金ホールで盛大に行われた土曜日の夜、楽しい演奏後のパーティを済まされた恩氏は、誰にも相談しないで月曜日の朝、解散宣言をされたのです。「恵まれ過ぎた温い合唱の方達より離れてみて、再び新しい出発点に立ち己に厳しく創作を試みたい。皆様には本当に申し訳ないのですが。」と。そして僅か10数人の若い人達の合唱団〔pétit〕を結成され、週2回の練習のために今 尚1曲ずつ創作に励んでいられる現在です。

歌曲は、1958年（昭和33年）に「五つの現代詩」「五つの抒情歌」の傑作が生まれ、2年先輩の畑中良輔氏が美しい旋律に叡智を秘め重厚な歌唱で紹介された事は大中氏にとって幸福な出発であったと思います。

「初期の作品は、少し見栄をはっている様で、いやに重々しさがあって……。」と、テレながら自己批評されました。数多くの歌曲は氏独特の軽妙で親しみのある青春の歌、少しニヒルな人生の歌、さわやかな恋の歌、と多彩な拡がりをもせてきました。哀しい詩の中からも温かさがほのぼのと伝わるのは、氏のお人柄からくるもののでしょうか。

お好きな歌を伺いましたら、その一つに「じゃあね」（谷川俊太郎詩）をあげられました。

思い出しておくれ
あの日のこと
楽しかったあの日のこと
けれどそれももう過ぎ去って
じゃあね
ひとりぼっちはこわいけど
きみにはきみの明日がある
どこか見知らぬ宇宙のかなたで
また会うこともあるかもしれない
じゃあね
もうふり返らなくていいんだよ
さよならよりもさりげなく
じゃあね じゃあね……

忘れちゃっておくれ
あの日のこと
くやしかったあの日のこと
けれどそれももう過ぎ去って
じゃあね
年をとるのはこわいけど
ぼくにはぼくの日々がある

—後略—

3/4拍子、Andante の中に3連音符の囁く様なリズムが流れ、ピアノパートと歌の旋律は思ひ出の中で対話をしている様です。失った愛のやるせなさをロマンティックに訴えてくる歌です。しかし、内面に秘められたものは過去の自分との決別かもしれません。

しかし氏は、「こんな甘美な歌、それもよく似た歌が多いと言われましてね……。」と言。

1958年（昭和33年）、34才の時、芸術祭賞を受賞してから度々の奨励賞・優秀賞・日本童謡大賞、1989年4月には紫綬褒章受賞が輝かしい氏の作曲歴を飾っています。

「我が儘な仕事ばかりして僕は何も公共の為にしていないのですよ。」と謙虚に語られるのですが、童謡・合唱・ピアノ曲・歌曲を通して全国の子供達・合唱を楽しむ人達・専門の音楽家まで、測り知れない恩恵にあずかっているのです。

その後、東京と名古屋の氏の作品リサイタルに御招待を受けました。どこから集まってこられるのか、満場のお客様は、他の演奏会で見かける様にお義理で来た人は一人もない様です。会場が、氏の歌を口ずさむ喜びで満たされます。大中恩氏の人気は、流麗で親しみやすい旋律の世界、誰もが音楽の中で素直に自由に遊ぶことの出来る世界があるからでしょう。

1989年4月10日

〔注〕

1) 信時 潔 のぶとき・きよし 1887・12・29（京都）—1965・8・1（東京） 作曲家

1910年東京音楽学校本科卒業後ドイツに渡り、ゲオルク・シューマンに作曲師事。1923-32年東京音楽学校作曲科教授。42年に日本芸術院会員。64年文化功労賞を受賞。作品：カンタータ《海道東征》、歌曲《海行かば》、《沙羅》、《小倉百人一首より》など、ピアノ曲《木の葉集》、《日本俚謡集》、《六つの舞謡曲》など、チェンバロのための《東北民謡》ほか。山田耕筰と共に日本に西洋音階による芸術歌曲を確立し、ドイツ古典派の手法の中で日本的な堅実、厳粛、素朴な歌曲を多く書いた。

2) 橋本国彦 はしもと・くにひこ 1904・9・14（東京）—1949・5・6（神奈川） 作曲家・指揮者

東京音楽学校本科でヴァイオリンを専攻し、研究科で作曲を学び、同校の講師、助教授を経て作曲教授となる。1934-37年ヨーロッパ留学、クシェネック、シェーンベルクに師事、47年東京音楽学校退職。初期には演奏活動もしたが後には作曲活動を主とした。作品にはカンタータ《皇太子御生誕奉祝歌》（1934）、交響曲ニ調（1940）、ヴァイオリン独奏曲（1942）などがある。歌曲（独唱・合唱・童謡）にすぐれたものが多く、深尾須磨子作詩の《薔》、《斑猫》、西条八十作詩の《お菓子と娘》などはよく知られ華麗・繊細。当時ドイツ的であった日本の音楽界にドビュッシーの影響による新しいデクラメーションスタイル（朗唱法）を試みセッションを起した。

ひとりぼっちがたまらなかったら

——寺山修司の詩による——

この歌曲集は、1985年6月24日から8月23日までの丁度2カ月の間に書いたものです。

寺山修司青春作品集：6 ‘愛さないの愛せないの、’という詩集を手にしたのは同年の春でした。楽しくてたまらない、そして哀しくてしかたのないこのすばらしい詩集にめぐり逢ったことを、いまほんとうにすばらしいことだったと思っています。

‘寺山修司、’という名前は勿論ずっと以前から知っていましたが、若くして亡くなられた才能ある氏の、多くの業績を詳しく知っているわけではないので、何を語ることも出来ないし、語ろうとも思いません。この詩集の中にあるように、「魔法使い」「忍術使い」という言いかたをすれば、寺山氏は「ことば使い」という不思議な術師だと思われます。私のウタは、その寺山氏の術に縦横に翻弄され、極めて快いものの中で、いつのまにか書きあげたものなのです。その喜びと哀しみが、多くのみなさんに共感を得られれば幸いです。

1985年10月

大中 恩

ひとりぼっちがたまらなかったら

てがみ

かなしみ

汽 車

少女から神さまへの？ マークつきのお手紙

永遠にあこがれたら

幸福が遠すぎたら

海が好きだったら

もんだいは

ヒスイ Jade

ひとり

世界のいちばん遠い土地へ

ある日

かなしくなったときは

海の起源に関する一章

見えない花のソネット

けむり

恋のわらべ唄

半分愛して

種 子

劇 場

ぼくが死んでも

忘 却



寺山修司 青春作品集
(新書館発刊)より引用

懐かしのわが家

昭和十年十二月十日に／ぼくは不完全な死体として生まれ／何十年かか、って／完全な死体となるのである／そのときが来たら／ぼくは思いあたるだろう／青森市浦町字橋本の／小さな陽あたりのい、家の庭で／外に向って育ちすぎた桜の木が／内部から成長をはじめるときが来たことを

子供の頃、ぼくは／汽車の口真似が上手かった／ぼくは／世界の涯てが／自分自身の夢のなかにしかないことを／知っていたのだ

(朝日新聞)

寺 山 修 司 年 譜

西暦	年 号	年 齢	略	歴
1935	昭和10年		12月10日	警察官である父寺山八郎、母ハツの長男として青森県弘前市紺屋町に生まれる。
1936	昭和11年			母ハツが「修司」と命名。1月10日生として役場に届けられる。
1937	昭和12年	1	父、刑事となり、五所川原署へ転勤。転居。 1年毎に転居。(浪岡→青森市→八戸)	
1941	昭和16年	5	聖マリア幼稚園に入園。父、召集出征。再び青森市に転居。	
1942	昭和17年	6	青森県橋本小学校に入学。	
1943	昭和18年	7	絵で知事賞を受賞。	
1945	昭和20年	9	青森大空襲で焼け出される。伯父・義人の家、三沢市に母と共に引きとられる。 古間木小学校に転校。母、三沢市ベースキャンプ内図書館に就職。 9月2日 父、セレベス島で戦病死。	
1946	昭和21年	10	伯父の家を出、米軍没収の家を改築して暮らす。母は働いているのでいつも1人であった。	
1947	昭和22年	11	野球少年となり、少年ジャイアンツの会に入る。	
1948	昭和23年	12	古間木中学校に入学。母方、大叔父夫婦に引きとられる。母転勤、別居する。	
1949	昭和24年	13	東奥日報に投稿した詩が入選する。	
1951	昭和26年	15	青森県立青森高校に入学。雑誌「青蛾」を発行。青森の「暖鳥句会」に参加。 中学から高校にかけては、俳句に魅せられる。	
1952	昭和27年	16	全国の高校生に呼びかけて、10代の俳句雑誌「牧羊神」を創刊。	
1953	昭和28年	17	全国学生俳句会議を組織する。	
1954	昭和29年	18	早稲田大学教育学部国文学科に入学。第2回短歌研究新人賞を受賞。 混合性腎臓炎・ネフローゼ発病、昭和33年迄入院生活。賭博、競馬、ボクシングに熱中。	
1957	昭和32年	21	中井英夫の好意で第一作品集「われに5月を」が出版される。	
1959	昭和33年	22	ラジオドラマ「中村一郎」で民放祭大賞受賞。	
1960	昭和34年	23	ラジオドラマ2作目「ジオノ」で民放祭に入賞。長編戯曲、脚本、演出、多角的に活躍する。 この頃四谷左門町のアパートに母と同居する。	
1963	昭和38年	27	SKD女優九條映子と結婚。杉並区永福町に住む。大学で「家出のすすめ」を講演してまわる。	
1964	昭和39年	28	ラジオ「山姥」(NHK) イタリア賞グランプリ受賞。ラジオ「大礼服」(CBC) 芸術祭奨励賞受賞。	
1965	昭和40年	29	ラジオドラマ「犬神の女」で第1回久保田万太郎賞受賞。ラジオインタビュー「あなたは…」で芸術祭奨励賞受賞。 ラジオ「小さなオデッセウス」(JOFK)「調べ室の少年たち」(NHK) 原作ミシェル・クレノでイタリア賞受賞。	
1966	昭和41年	30	ラジオドラマ「コメット・イケヤ」(NHK) でイタリア賞グランプリ受賞。「おはようインディア」(NHK) 芸術祭放送記者クラブ賞受賞。テレビ「子守唄由来」(RKB 毎日) 芸術祭奨励賞受賞。	
1967	昭和42年	31	横尾忠則、東由多加、九條映子と演劇実験室「天井桟敷」を設立。 映画「母たち」(ATG) でヴェネチア映画祭短編グランプリ受賞。この作品のコメントを書くために、監督の松本俊夫らとフランス、アメリカ、ガーナ、アフリカなどを旅行。 放送叙事詩「まんだら」(NHK) で芸術祭賞を受賞。ラジオ「おはようインディア」で放送記者クラブ最優秀作品賞受賞。	
1968	昭和43年	32	アメリカ政府の招きで、アメリカ前衛劇事情視察。ラジオドラマ「狼少年」で芸術祭奨励賞受賞。	
1969	昭和44年	33	渋谷に天井桟敷館、及び地下小劇場落成。ドイツ演劇アカデミーに招待される。 九條映子と離婚。	

西暦	年 号	年齢	略 歴
1970	昭和45年	34	ロックフェラー財団の招きで渡米。シカゴにてネルソン・オルグレン宅に泊まる。歌「かもめ」の作詩をする。
1971	昭和46年	35	パリ、ロッテルダム、ニース等に映画上演のために訪れる。またユーゴスラビアでも「邪宗門」を公演しパリのシアターソレイユらと共にベオグラード国際演劇祭グランプリ受賞。 映画「書を捨てよ町へ出よう」(ATG)でサンレモ国際映画祭グランプリ受賞。
1972	昭和47年	36	バルセロナにサルバドル・ダリを訪れる。ミュンヘンで野外劇「走れメロス」、デンマークで「邪宗門」、オランダで密室劇「阿片戦争」を公演する。
1973	昭和48年	37	イランで「ある家族の血の起源」、オランダとポーランドで「盲人書簡」を公演する。 寺山修司作詩集・かもめ(サンリオ出版)を出版する。
1974	昭和49年	38	映画「田園に死す」(ATG)で文部賞芸術選賞受賞。ベナルマデナ映画祭審査員特別賞受賞。芸術祭奨励新人賞受賞。映画「ローラ」でベナルマデナ映画祭特別賞受賞。
1975	昭和50年	39	映画「庖瘡譚」でベナルマデナ映画祭特別賞受賞。映画「迷宮譚」でオーバーハウゼン実験映画祭銀賞受賞。映画「審判」でベナルマデナ映画祭特別賞受賞。
1976	昭和51年	40	パークレー・カリフォルニア大学の招きで渡米、映画シリーズ全作品上映。ベルリン映画審査員として渡独。パリフェスティバルオートヌの招きで渡仏。スペインベナルマデナ映画祭の招きで渡西、映画「阿保船」をイランで上映。映画「田園に死す」でベルギー・パース、ベナルマデナ各映画祭で審査員特別賞受賞。
1977	昭和52年	41	スイスのジュネーブ、オランダ、アムステルダムのキャノン画廊などで「寺山修司幻想写真展」を巡回開催する。映画「二頭女―影の映画」でベナルマデナ映画祭特別賞受賞。 映画「マルドロールの歌」でリール国際映画祭国際批評家賞受賞。
1978	昭和53年	42	オランダ、ベルギー、西ドイツの各都市で「奴婢訓」を巡演する。 ロンドン・リバーサイドスタジオの招きで渡英。フランス・アルル国際フェスティバルの招きで渡仏。
1979	昭和54年	43	天井棧敷 パリ、イタリア、ローマ、フィレンツェ、トリノ、ピサなどの各都市を巡演する。 ドゥリッド国際映画祭の招きで渡米。映画「マルドロールの歌」でフランス・リール国際短篇映画祭の国際批評家大賞受賞。 肝硬変のため北里大学付属病院に1ヵ月入院。
1980	昭和55年	44	「シティロード」読者選出ベストテン・演劇部門「作家・演出家」の分野で昨年に続き第1位となる。 ベストプレイ「演劇・舞踊」の分野で昨年(「奴婢訓」)に続き「レミング」が第1位となる。 犬を飼いニーチェと名付ける。
1981	昭和56年	45	肝硬変のため再び1ヵ月入院。映画「奴婢訓」でダウンタウン・ビレッジの有力なコミュニティ新聞「ヴィレッジジャー」紙の最優秀外国演劇賞受賞。 1月「寺山修司少女詩集」を創刊。
1982	昭和57年	46	「百年の孤独」(後に「さらば箱舟」に改題)の沖縄ロケ中に肝硬変一時悪化する。最後の海外公演「奴婢訓」をパリで公演。「リベラシオン」のインタビューで「僕の顔はもう見れないよ」と語る。12月「レミング―壁抜け男」公演を最後の演出と決意する。
1983	昭和58年	47	絶筆となった「墓場まで何マイル?」を書く。演劇団公演「新・邪宗門」のため「邪宗門」前半部分までを書きかえる。 4月22日 意識不明となり河北総合病院に入院。5月4日(水曜日)午後12時5分 肝硬変と腹膜炎のため敗血症となり、九條映子、田中未知らに看取られ死去。葬儀委員長・谷川俊太郎。中井英夫、山田太一、唐十郎、鈴木忠志、山口昌男が弔詞を捧げる。 7月31日 天井棧敷解散。12月5日 東京都八王子市高尾霊園に墓がつくられる。
1985	昭和60年		映画「さらば箱舟」公開。芸術祭大賞受賞。

寺山修司の詩を理解する為に引用した 詩・短歌・俳句・童話・エッセイ・評論

・…土肥みゆき 注

ひとりぼっちがたまらなかつたら

私が忘れた歌を
誰かが思い出して歌うだろう
私が捨てた言葉は
きっと誰かが生かして使うのだ

だから私は
いつまでも一人ではない
そう言いかけながら
一日じゅう
沖のかもめを見ていた日もあった

てがみ

つきよのうみに
いちまいの
てがみをながして
やりました

つきのひかりに
てらされて

てがみはおおく
なるでしょう

(こいしいひとの
まくらもと
うみがしづかに
なるように)

ひとがさかなと
よぶものは
みんなだれかの
てがみです

書きとめしわが一瞬を老かもめ (花粉航海—だまし絵)より

稽古場の夜の片隅ひと知れず埋めてしまひしチェホフのかもめ

人生はただ一問の質問にすぎぬと書けば二月のかもめ (青春歌集 鷗)より

死んだ人は墓に埋められるが、死んだ鳥はどこへ行ってしまふのだろうか？ たとえば一羽の年老いたカモメは、死んだら海に落ちてしまふのだろうか？ それとも、死と生とは鬼ごっこのように追いかっこをしていて、死んだら別のものに生まれ変わってまたははじめから生きなおすのだろうか？

シャンソン歌手のダミアは、あの潮をふくんだ霊媒のような声で、

海で死んだひとは

みんな

カモメになってしまうのだよ

と歌っているが、ぼくにはどうしても死から生へのすばやい変わり身が出来そうにない。

(恋人たちの城 町娘と武士——お露と新三郎)より

・かもめ

1915年～1953年 (15才～18才) 青森県立青森高校時代の俳句少年時代より「かもめ」は命・死・父としてうたわれてゆく。又実験映画にも「マーク」として使われている。

・伴奏は波を表現し「沖のかもめ」は大切な言葉として rit. をかけ詩人の心を鋭くとらえている。

あなたへの手紙

あて名のないてがみを書いたことがあります
それを郵便ポストに入れずに
楡の木の穴にいれたことがあります
まだ逢ったことのない女の子へのてがみでした
愛のてがみでした
ところが そのてがみに返事がきたのです
おてがみありがとう
愛のてがみに 愛のてがみで
お返事できるのがとてもしあわせです
この返事も
ほんとはぼくがじぶんで書いたものです
ぼくが今より若く まだ人生の苦渋を知らなかった頃
空はいつも真青だった

・てがみ

ファンタジーとロマンを秘めて寺山氏の好きな「あおい色」と結ばれ、相聞歌として現われる。青春作品集「はだしの恋唄」の感傷的四つの恋物語「思いで盗まれた」の女学生弓子の詩として登場する。

かなしみ

私の書く詩のなかには
いつも家がある

だが私は
ほんとは家なき子

私の書く詩のなかには
いつも女がいる

だが私は
ほんとはひとりぼっち

私の書く詩のなかには
小鳥が数羽

だが私は
ほんとは思い出がきらいなのだ

一篇の詩の
内と外とにしめ出されて

私は
だまって海を見ている

汽車

ぼくの詩のなかを
いつも汽車がはしてゆく

その汽車には たぶん
おまえが乗っているのだろう

でも
ぼくにはその汽車に乗ることができない

かなしみは
いつも外から
見送っていたい

わが空を裂きゆく小鳥手をあげて時とどめんか新芽の朝は (海の休暇) より

失いし言葉かえさん青空のつめたき小鳥撃ちおとすごと

空のない窓が記憶のなかにありて小鳥とすぎし日のみ恋おしむ
(季節が僕を連れさったあと) より
われの明日小鳥となるな孤児の瞳にさむき夕焼燃えている間は
(空には本一浮浪児) より

• 小鳥

「小鳥」は主に「十五才」という初期歌篇の中で、うたわれている。「いとしいもの」として少年の日の心の中に巣をもっている様だ。

• 対になった調子が失われた7・8節で作曲家はハ長調より「変」の調へ、美しい夢の様な転調を行っている。

誰か故郷を想わざる

汽笛

私は1935年12月10日に青森県の北海岸の小駅で生まれた。しかし戸籍上では翌36年1月10日に生まれたことになっている。この30日間のアリバイについて聞き糺すと、私の母は「おまえは走っている汽車のなかで生まれたから、出生地があいまいなのだ」と冗談めかして言うのだった。

実際、私の父は移動の多い地方警察の刑事であり、私が生まれたのは「転勤」のさなかなのであった。だが、私が汽車のなかで生まれたというのは本当ではなかった。北国の12月と言えば猛烈にさむかったし、暖房のなかった時代の蒸気汽車に出産間近の母が乗ったりする訳がなかったからである。それでも、私は「走っている汽車の中で生まれた」と言う個人的な伝説にひどく執着するようになっていた。

自分がいかに一所不在の思想にとり憑かれているかについて語ったあとで、私はきまって、

「何しろ、おれの故郷は汽車の中だからな」
とつけ加えたものだった。

• トレモロによって、胸の痛みを表現している。12/8 拍子の中に突如昔の汽車の哀しげな汽笛がひびく。

少女から神さまへの？マークつき
のお手紙

あなたは一人しかいないのに
あたしには目がふたつある
もうひとつの目は
なにを見たらいいのでしょうか？

あたしには目がふたつしかないのに

空には星が無数にある
数えのこした星は
誰が教えてくれるでしょう？

永遠にあこがれたら

二人ではじめて逢った海
モーツァルトを聴いた帰りの海
キスを許した夜の海
本のように二人で読んだ青い海
喧嘩して一人で来た雨の海
一人が結婚してしまい
あとの一人が思い出していた海
海はいまでも青いだろうか

物語は終わってしまっても
海は終わらない

目

目はなによりも質問である
その返答は世界である

目は燈台である
心は孤独な航海者である

目は窓である
季節は窓拭き掃除人である

目は読む力である
歴史はかぎりない書物である

目は自然をたたえる
涙は世界で一番小さな海である

目は有^{もつ}す光である
視線はことばの水平線である

目はいつも二つある
一つはおまえを見るために
もう一つはばく自身を見るために

(寺山修司少女歌集)より

二人で同じ桜んぼを食べることはできる
二人で同じモーツァルトを聴くこともできる
二人で同じホテルで海を見たあとで
二人で同じベッドに眠ることもできる

だが なぜだろう
二人で同じ夢を見ることはできない

(同じ幸福が二つないとは
何という 神^{かみ}の答)

(幸福についての七つの詩)より

●モーツァルト

多くの作曲家の中で屢々登場するのはモーツァルトだけである。そして何時も二人で聞かれる。

寺山修司は、この芸術家の中に「走る悲しみ」ゲオン、「情熱の憂愁」スタンダールと評される共通の自己を見つめたのであろうか。

●モーツァルトは「ぼくのマリー」「ハート型の思い出」「友だち」「きみが人生の時―結婚論」「ニューヨークからの絵葉書」にも登場。

幸福が遠すぎたら

さよならだけが
人生ならば
また来る春は何だろう
はるかなはるかな地の果てに
咲いてる野の百合何だろう

さよならだけが
人生ならば
めぐりあう日は何だろう
やさしいやさしい夕焼と
ふたりの愛は何だろう

さよならだけが
人生ならば
建てたわが家は何だろう
さみしいさみしい平原に
ともす灯りは何だろう

さよならだけが
人生ならば
人生なんか いりません

海が好きだったら

水になにを書きのこすことが
できるだろうか
たぶんなにを書いても
すぐ消えてしまうことだろう

だが
私は水に書く詩人である
私は水に愛を書く

たとえ
水に書いた詩が消えてしまっても
海に来るたびに
愛を思い出せるように

いちばんみじかい手紙

ぼくに
さよならをください
そうしたらボール箱へつめて
紙ひもでくくって
ハドソン川へ捨ててきてあげよう

さよならの囁き

「さよなら」という言葉はどんな形をしているか？

というのを真面目に研究していた言語学者がついにその正体の発見に成功した。それはレントゲンで写し出すと、おぼろげながら輪郭がはっきりして、生物のようにのびたりちぢんだりするものだったのである。

「さよなら」は、こんな形をしていた。これは痩せた鳥のようでもあり、地図にはのっていない、地中海の小さな島のようにもあった。

音声学者の意見によると、「さよなら」の「ら」の音に感情のニュアンスがこめられるので下部の形が乱れたのであろう、と言う。のびちぢみするのは「さようなら」と、「う」を入れて長く発音する人と「さよなら」と短く言う人があるためらしい。ともかくも、言語学者はこの研究に費やしてきた20年間の成果がついに実ったことで上機嫌であった。

彼はそれを囁きにした。

次の土曜日の学会に提出して、「形象から見た言語の構造の具体的一例」とかなんとか難しい報告をするつもりだったのである。

(船の中で書いた物語)より

• 前奏はシンコペーションを使って、やるせなさを表現している。23曲中、この曲のみが「リピート」を用い、しみじみとした「質問」を繰返している。

断片ノート(1)

この世で一ばん遠い場所は
じぶん自身の心である

生まれてから何回ドアを閉めたか
思いだすたび
ひとは老いる

みんなが一つずつ
じぶんの海をもてばよいのだ

わかれるとき
どこへでも持っていけるように

断片ノート(3)

海を書くのではなく
海で書きたい

一字ごとに原稿用紙が濡れてゆき
やがて一篇の詩が波立って
怒濤となるように

• 「海」

「女は海、男は火」幼い時海に親しんだ寺山修司は終生海をふるさとにしているようだ。この歌曲集も半分以上13曲の詩が海を奏でる。

もんだいは

海のなかに小さなもうひとつの
海があるように
本のなかに小さなもうひとつの
本があるのは
たのしいものです

しかも その本には
不思議な絵がたくさんあって
あなたを待っている

もんだいは
あなたのなかに小さなもう一人の
あなたがいるかどうか
ということだけです

ヒスイ Jade

なみだを遠い草原に
ヒスイをきみのでのひらに

過ぎ去った夏に
そう歌った石よ
それはまばゆいばかりの緑
小さな大自然

なみだを遠い草原に
ヒスイをきみのでのひらに

だがヒスイは買うにはあまりにも
高価すぎて
ぼくはあまりにも
貧しかった

だからこそぼくは歌ったのだ
せめて言葉の宝石で
二人の一日を
かざるために

なみだを遠い草原に
ヒスイをきみのでのひらに

キャベツの芯^{しん}に
とじこめられているのは誰？
靴のお船に
とじこめられているのは誰？

書物の23頁と24頁のあいだに
とじこめられているのは誰？

もしも
虫メガネの探偵がやってきたら
わたしをさがしだしてください

わたしのからだにとじこめられた
ほんとのわたしは泣いている (ぼくの作ったマザーグース) より

海のない帆掛船あり わが内にわれ不在の銅羅鳴りつづく

わが内にわれにひとりの街があり夏蝶ひとつ忘れ翔くる (初期歌篇 15才)より

宝石

ある日ぼくは思った
ぼくに買える宝石なんてあるだろうか

また別の日ぼくは思った
ぼくに作れる宝石なんてあるだろうか

その次の日ぼくは思った
ぼくの手に入る宝石なんてあるだろうか

ぼくは
詩をかく
「どうにも
宝石を手に入れることのできないぼくが
かなしい
だが宝石を欲しがるぼくの心が
もっとかなしい」と

• ハーブのアルベシオの形の上でアリアの様に歌われる。

• Cat's-eye

「猫目石」「19歳」「いつか」^{Coral}「サンゴ」^{Emerald}「エメラルド」^{Sapphire}「サファイア」
「ガーネット」^{Garnet}「名もない宝石」^{Diamond}「ダイヤモンド」^{Diamond}「さがす」等宝石に関する詩
は多い。

ひとり

いろんなとりがいます
あおとり
あかとり
わたりどり
こまどり むくどり もず つぐみ

でも
ぼくがいつまでも
わすれられないのは
ひとり
という名のとりです

海では飛べない

そうです 海では飛べません
それなのに 海で飛ぼうとして
びしょぬれになっている悲しい鳥

一篇の詩を書くということは
そうした不可能性に賭けてみること
ということができるでしょう

3羽の鳥

ボール紙の鳥は
重くてとべません
シャボン玉の鳥は
手にとったらはじけて消えてしまいました
影の鳥は
いつも地上をはなれられません
だから
この3羽の鳥は
とぶことをやめて詩を書いたのです

(ことばの城) より

• 寺山修司氏独得の言葉遊びから「ひとり」という「とり」が生まれました。
軽やかな2拍子から語る様な6拍子に続き、泌々と言いきかせる様な4拍子
で終わっている。

世界のいちばん遠い土地へ

一本の樹は
歴史ではなくて
思い出である

一羽の鳥は
記憶ではなくて
愛である

一人の誕生は
経験ではなくて
物語である

私は
それらのあいだを旅するとき
なぜだか
なみだぐんでしまうのです

一本の^{かし}榎の木やさしそのなかに血は立ったまま眠れるものを

(少年歌集・麦藁帽子)より

歴史の目的をヘーゲルのように「国家」によって実現させようとするのも、太宰治のように「チサの葉一枚」でもって追い求めようとするのも、それが行為を通して貫徹させようとする限りにおいては、階級性と暴力、あるいは自殺という荒療治を必要とすることになるのである。「過去は一つの異国である」というハートレーの詩句も、国家によって歴史の目的を遂げようとしている権力に対しては、反歴史的思考としてうつるかも知れないが、さらに高く鳥瞰してみれば一つのストーリーを語っているにすぎないだろう。私は歴史は一冊の書物にすぎない——という説にくみする。過去は、ストーリーであり、未来だけがエクスペリエンスであり得る。私の朝は、夜ふりかえって見たときには一つの比喩にすぎない。それを歴史性としてとらえ「過去を生きたものとして、人間自身がこの連続性を行為において具現する」(アンリ・ルフェーブル)のは、歴史の創造者としての自負ではあっても、歴史の創造者自身ではあり得ないだろう。あらゆる歴史は、過去であり、思い出である。

思い出ということばは、科学を裏切る。人は思い出を持つことができるが、事物は思い出を持つことができないからである。思い出は、個人的な蓄積であるが、ときには疎外された人間たちの失地回復の〈緑の土地〉になることもあり得る。それは、もっとも反国家理念的で、エロスの、しかも大義名分の立ちがたい一つかみの野の花のようなものでありながら、しかし統合体としての歴史ではなく、配分され、分割された歴史のかけらとして、根強い変革の種子になることができるのである。

(評論「歴史」)より

「一本の樹の中にも流れている血がある。そこでは、血は立ったまま眠っている」というみじかい私自身の詩から発想されたこの戯曲は、60年安保闘争との関係を省いて語ることは難しい。私の中には、その頃から、「政治的な解放は、所詮は部分的な解放にすぎないのだ」という焦立ちがあり、それがこの戯曲をつらぬく一つの政治不信となってあらわれている。勿論、処女戯曲だけに、言葉ばかりがあふれ出し、劇であるよりは集団朗読的な様相を呈している。要するに、この戯曲ははじめから、「文学」を旨ざしており、そのことが決定的な弱点となっている。それでも、23歳という弱年で書かれたこの戯曲に、私が愛着をもっているのは、この戯曲の中にその後の私の演劇のあらゆる要素が萌芽しているからである。

(毛皮のマリー)より

1960年(昭和34年)23才 長編戯曲「血は立ったまま眠っている」劇団四季で上演・演出浅利慶太。

• この曲の音楽が詩の内面性を十分に表現するにはオーケストラの伴奏が必要の様に思われる。

ある日

母のない子に 本がある

本のない子に 海がある

海のない子に 旅がある

旅のない子に 恋がある

恋のない子に 何がある？

ひまわり咲いて

日は暮れて

恋のない子に 何がある？

かなしくなったときは

かなしくなったときは

海を見にゆく

古本屋のかえりも

海を見にゆく

あなたが病気なら

海を見にゆく

こころ貧しい朝も

海を見にゆく

ああ 海よ

大きな肩と広い胸よ

どんなつらい朝も

どんなむごい夜も

いつかは終る

人生はいつかは終るが

海だけは終らないのだ

かなしくなったときは

海を見にゆく

一人ぼっちの夜も

海を見にゆく

花詩集

子どもの頃から、私は花ざらいであった。花には少女の純情と年上の女の情欲とがまじりあっていて、とても私の手におえるものではない、という気がしていたのだ。

それに、花がだれにでも愛されるということにも、嫉妬をいだいていたのかも知れない。私は、私といくつかの花との出会いを思い出すと、なつかしさよりもおそろしさがこみあげてくるのだが、そのことを思い出にしておかずに書き捨ててしまうことにしよう。

(バラ殺し・チューリップ狂・ランの誘惑・ユリの悪・コスモスへの侮蔑)より

列車にて遠く見ている向日葵は少年のふる帽子のごとし (初期歌篇15才)より

一粒の向日葵の種まきしのみに荒野をわれの処女地と呼びき

向日葵は枯れつつ花を捧げおり父の墓標はわれより低し

(空には本一チェホフ祭)より

• ひまわり

少年・青年時代、心の中から語りかける友であり最も愛した花である。

• 詩のリズムにのって音楽も ♪♪ のリズムにのり哀しい詩がさらりと歌われている。

海について——グライアイ

——大人になったらなんになるの？

と聞かれるたび、

——船乗りになるんだ。

と答えるのが、ぼくの義務であった。それは、ぼくの生まれる前から決まっていた宿命であり、他にどんな生き方があるとも思えないのだった。だが高等学校にはいるころになると、ぼくの答は少しずつ変わっていった。

——大人になったらなんになるの？

と聞かれるたび、ぼくは、

——航海学者になるのだ。

と答えるようになった。

ぼくは、海といっしょに暮らすだけでなく、海のことももっと知りたいと思うようになったのだ。ぼくは燈台の近くで少年時代を過ごしたので、屋根にのぼるといつでも海を見ることが出来た。陽当たりのいい土曜日、木のテーブルの上に大きな画用紙をひろげて、ぼくはさまざまな海図をつくった。むろん、それはどれもこれも空想の海図で、海流もみなぼくのでっちあげた、でまかせのものにすぎなかった。

たとえば、ぼくは赤道のすぐ下のガラパゴス諸島からすこし離れたところに「ぼくだけの島」を描きこんだ。フンボルト海流などは無視して、まったく新しいオデッセイ海流というのをつくり、その水が太平洋の中央海盆へ流れこむようにした。

そして、ふだんから悲しいこと、いやなことがあると、すべて海に洗い流してもらうために一人で泳いだものだった。

ところで、そんなぼくが海に別れを告げたのは19歳の春である。ぼくは大学生になって都会へ出て、下宿暮らしをするようになった。ぼくの下宿はガードの下だったので、いつも電車の音に悩まされるのだが、それでも夜明けのまどろみの中で、ふとどこからともなく聞こえてくる海鳴りの音を聞くことがあるのだった。

(ぼくのポリネシア神話)より

• 中田喜直氏「木の匙」の中の「悲しくなったときは」と同じ歌詞である。ピアノは岸に打ち寄せる波音で始まり波音で終る。

海の起源に関する一章

きみ、知ってるかい？

海の起源は、たったひとしずくの女の子のなみだだったんだ。

そのなみだが、どうして止まらなくなって地球を水びたしにしまったかは、どんな科学の本にも出ていないが、ぼくだけは知っているんだ

見えない花のソネット

そこに
見えない花が咲いている
教えてあげよう
ぼくの足もとだ

数えてみると
花びらは四枚 色は薄いオレンジ
花ことばは知らないけれど
いつも風にゆれている

そこに
見えない花が咲いている
ぼくにだけしか見えない花が咲いている

だから
さみしくなったら
ぼくはいつでも帰ってくる

なみだは
にんげんの作る一ばん小さな海です

18歳

海が La Mer で、女性名詞であることを知ったとき、ぼくは高等学校の3年生になっていた。あの雄大なユリシーズの海が、なぜ女性なのか、ぼくには理解出来なかった。

ただ、海が女性である以上、たやすく自分の裸を見せることは、ぼくの自持が許さなくなった。そしてぼくは泳ぐ、ということに疑問を持ちはじめた。

海が女ならば、水泳は自分がその女に弄ばれる一方的な愛撫にすぎないではないか。ぼくは、あの青い素晴らしい海が、どちらかといえば母親型の海であることを惜しんだ。そしてドビュッシーの『海』という曲などは、海のエゴイズムを知らない曲である、と思った。

ある日、ぼくは海を、小さなフラスコに汲み取って来た。下宿屋の暗い畳の上に置かれたフラスコの中の海は、もう青くはなかった。そして、その従順な海とぼくとは、まるで密会でもするように一日黙って見つめあっていた。

• 詩のもっているリズム感を、♪ ♪ ♫ の Bass メロディーで表現している。

ソラ豆の殻一せいに鳴る夕母につながるわれのソネット

死者たちのソネットならん空のため一本の樹の髪そよげるは
(初期歌篇15才) より
いくつかの海のソネット書きためて君に知られぬ日も思いおり
(はだしの恋唄—二重奏 感傷的な四つの恋の物語) より

• 6/8・C・6/8・3/4・C・6/8 の拍子の変化 Andante Andantino の Tempo の変化で一篇の詩の中の多様性に対応している。

けむり

言葉で
一羽の鷗を
撃ち落とすことができるか

言葉で
沈む日を
思いとどまらせることができるか

言葉で
バルセロナ行の旅客船を
増発できるか

言葉で
人生がはじまったばかりの
少女の薄い肩を
つかむことができるか

私は
悲しくなると
けむりを見ている

けむりのペンで
けむりの紙に
書いたけむりのラブレター
読まないうちに消えちゃった

最後の少年倶楽部派

寺山修司ノート

清水和

かつてわたしは寺山修司に二度ほど会ったことがある。一度目は、ほぼ10年まえの同志社の大学祭であった。良く学生集会などがひらかれる明徳館21番教室という千人ぐらいいは収容できる大教室で寺山修司は十数分「家出のすすめ」について機関銃のようにしゃべりまくった。わたしたち大学祭の興行師どもは啞然とした。予定時間は1時間半ぐらいいだったからである。わたしの隣に座って聞いていた女の子が呟いた。「歌人とか詩人はあんなに太っていてはいけない!」

そのあと、わたしたちは喫茶店で寺山修司と話し合った。しきりに質問する林君という痩せた学生に向かって彼はうるさそうに言った。「きみも含めて京都の学生は痩せすぎている。京都はギョーザが美味いんだからギョーザをもっと喰うべきだ!」

わたしは歌集『空には本』にはさみこまれていた立原道造的な風貌の痩せた寺山修司の写真を知っていた。後で知ったことだが、その写真は病床で撮られたものらしかった。寺山修司は肉体的にも精神的にも大きく変っていたのだ。現在、わたしの手もとにある白玉書房版『血と麦』には、そのときのサインがあるが、わたしはほとんどしゃべった記憶がない。

二度目に出会ったのは思潮社が現在の場所に移るまえの編集室であった。3、4年まえの事である。たしか高橋秀一郎が東京をひきはらうに当って挨拶がてら思潮社に本を買いにいくというので、わたしものこのことについて。とつぜんそこへ寺山修司が入って来てわたしを指して「この人知ってる!」といった。数年まえに出会ってろくに話もしたことのない学生顔を覚えていようとは、わたしには驚きだった。彼は疾風のようにしゃべり疾風のようにまた出ていった。わたしはほとんどしゃべった記憶がない。(後略)

詩人『白鯨』同人、詩集『少年』『案符の家族』他

• 詩の中に潜むすばやいリズム感は寺山修司氏の日常生活より生まれてくる様だ。作曲家はスタッカートと6連符で之に対応している。「もんだいは」「種子」も同じ表現をしている。

恋のわらべ唄

すきなひとを
指さしたら
ひとさし指から花が咲いた

きらいなひとを
指さしたら
ひとさし指が灰になった

ところですきなひとのことを書いたら
鉛筆から花が咲くでしょうか

きらいなひとのことを書いたら
鉛筆は灰になるでしょうか

鉛筆になった少女

鉛筆になった女の子は、朝から晩まで
全身で「恋」という字ばかり書いていました

でも鉛筆になった女の子は
その字を読むことができませんでした

なぜって
鉛筆には 目がないからです

色鉛筆へ
またがって
ゆくぞ地獄へ菓子買いに

- メルヘンの世界は軽やかに踊り出したい様なリズムの上で微笑んでいる。

半分愛して

半分愛してください
のこりの半分で
だまって海を見ていたのです

半分愛してください
のこりの半分で
人生を考えてみたいのです

- だまって海を見ていたのです、という詩の言葉は「かなしみ」「時には母のない子のように」でも使っている。

- 「半分愛して」という表現が素晴らしい。Adagio 4/4 拍子の中で切なく繰返される。旋律とシンコペーションは女性的である。

種子

きみは
荒れはてた土地にでも
種子をまくことができるか？

きみは
花の咲かない故郷^{なごき}の渚にでも
種子をまくことができるか？

きみは
流れる水のなかにでも
種子をまくことができるか？

たとえ
世界の終わりが明日だとしても
種子をまくことができるか？

恋人よ
種子はわが愛

劇場

たいくつの仮面をはずすと
よろこびの仮面があります

よろこびの仮面をはずすと
いつわりの仮面があります

いつわりの仮面をはずすと
くたびれた仮面があります

くたびれた仮面をはずすと
とまどいの仮面があります

はずしてもはずしても
はずれない仮面は

いつもなみだを流している

もし、ママになろうとしていたら

ママはわが家の中のもっとも美しく、そしてもっともなんでもない部分です。ママは毎朝フライパンで太陽を炒めます。ママは歌が大好き。ママの中にはいつでもドアが一枚あって、風の日でも雨の日でも開いているのです。

泣かされてきた男の子がそのドアの中へは行って行き、嘘をついている女の子もそのドアの中へは行って行き、裸にされて笑いながら出て来る。ママは夜、わが家で一番最後にお休みのお祈りをする人です。

ママは種子をまくのが大好き。花の種子よりも、翼のある種子を子供たちの中へいっぱいまきちらす。男の子の中には大臣の種子やフットボールの種子。風の種子。髯^{ひげ}の種子。飛行機の種子。女の子の中には恋の種子。バレリーナの赤い靴の種子。歌の種子。誕生日のひまわりの種子。海辺の小さな星の種子。

どの種子もが大きくなって、男の子や女の子の中で逞^{たくま}しい木になるよう、ママはいつでもお祈りしてます。

(ポケットに入るくらいの小さな恋愛論)より

種まく人遠い日なたに見つかわが婚約なれど訛^{なま}りはふかき

(青春歌集 鷗)より

わが埋めし種子^う一粒も眠りいん遠き内部にけむる夕焼

(少年歌集 麦藁帽子)より

• 種子

「希望」「エネルギー」「可能性」「愛」色々のものが託されている。

• 「けむり」と同じく詩に内在する急速なテンポを作曲家はスタッカートで表現している。

• 深刻な人間の心理描写は幅広い音域と転調の激しさ、特殊なリズム形で演奏者の力量に委ねられている。

ぼくが死んでも

ぼくが死んでも 歌などたわず
いつものようにドアを半分あげてくれ
そこから
青い海が見えるように

いつものようにオレンジむいて
海の遠鳴り数えておくれ
そこから
青い海が見えるように

忘却

思い出を売る男がいたら
ぼくにその男の住所を教えてください

どんなに遠くても
ぼくは逢いにゆくつもりです

このままでは
さみしすぎる

忘却は
北国の海のように老いやすいので

死

男はだれでも死について想っている。男にとって「いかに死ぬべきか」という問いは、「いかに生くべきか」という問いよりも、はるかに美学的にひびくのだ。

私も、何度か自分が死ぬときの夢を見たことがある。そのときの、あたりにはどんな花が咲いていて、だれがそばに看取ってくれていて、どんな歌が聞こえていたか、ということを私は忘れることはないだろう。

私は死んでも
いつものように
ドアを半分だけあけておいてください
月の光がさしこむように

少年時代には、こんなふうに関自分の死を自然の祝福とむすびつけて考えることが私の習性であった。私はたくさん、自分の死についての詩を書いた。だが、長じてくると私は自分の死を独立したものとして考えることが難しいと思うようになってきた。

「あらゆる男の生きる命には意味がある。神は、わたしが無であることを知っておられる。何かが目ばたきするとわたしが生まれる。なにかが目ばたきするとわたしが死んでしまう。

男が家をたてるとなにかが目ばたきをする。男が嫁を見つけると、なにかが目ばたきをする。嫁に息子が生まれるとなにかが目ばたきをする」

——ウィリアム・サローヤン ("Rock Wagram")

私は自分だけのものではなくなくなってゆく死について想うようになった。もしかしたら、私の死は私に手渡される前には、他のだれかがあずかっているのかも知れない。そうだとしたら、この受け渡しは出来るだけ劇的であってほしい、というのが私の願いになったのである。

私は、深夜映画のヤクザのとび散らす赤い血に、片隅の犯罪に、そして見通しのない革命の企みのなかに、「死」を見出そうとするようになった。そして、私の死は、一輪のバラの幻のように「贈られる」のがふさわしいと思うのだ。

いつから、私はひとに殺されることを夢見るようになってしまったのだろうか？
(ぼくがぼくであるときのノート) より

私は肝硬変で死ぬだろう。そのことだけは、はっきりしている。だが、だからと言って墓は建てて欲しくない。私の墓は、私のことばであれば、充分。

「あらゆる男は、命をもらった死である。もらった命に名誉を与えること。それだけが、男にとって宿命と名づけられる。」

ウィリアム・サローヤン「墓場まで何マイル？」より (週刊読売)

・「ぼくが死んでも」「忘却」は詩と作曲が美しい結晶となり、23曲のフィナーレとしてふさわしい。深い感動に満ちている。

『大中恩歌曲集』

ひとりぼっちがたまらなかつたら
—寺山修司の詩による—』より

日本音楽著作権協会出許第8970121-901号

寺山修司の作品と歌曲の最初の出遇いは、中田喜直作曲の、二人のモノローグによる歌曲集「木の匙」の様です。之は1964年、第19回芸術祭参加作品として、朝日放送の委嘱により作曲されています。中田氏は、この曲に関して「ひろく国民に愛される歌曲集、たとえば、シューマンの『詩人の恋』のような曲の現代版を書きたいと思っていたのと、この詩の内容やスタイル、感覚が、私の考えと一致したので、大きな共感をもって作曲することが出来ました。」とのべていられます。

尚、中田氏は「美しいメロディーも大切ですが、現代はただきれいでなく、新しい形のメロディーも必要だし、伴奏の形態も、きれいな和音だけでなく、12音を含めた無調的な音も必要になってくるので、そういった現代的手法も考えながら作曲しました。」と語っていられます。この事より寺山修司の作品が、従来の歌曲に使われたものとは何か異なる前衛的な表現を必要としている事が察せられます。

当時、寺山作品を歌曲にした作曲家は見当たりません。

それから約20年を経て、1985年寺山修司氏他界の後に、大中恩氏により、23曲からなる歌曲集「ひとりぼっちがたまらなかったら」が生まれています。23の詩は一連の物語で結ばれているのではなく、比較的整った形の短いものが選ばれ、寺山氏の感性の宴の中で、繊細な切なさ、眩しい夢と哀しみを秘めて、語りかけてきます。

之等の詩を含む、新書館発刊（1984年）の寺山修司青春作品集(6)「愛さないの愛せないの」には、紹介者として、早稲田大学の同級の友であり、シナリオライターの山田太一氏が次の様に語っていられます。

☆「自分の才能を楽しんでいる寺山修司」

本書は楽しい。そして哀しい。

この中でも書いているけれど、寺山さんは魔法使い、忍術使いのように「ことば使い」という不思議な術師になるのだ、といていた。誰だって、自分に得意な「術」があれば、理屈ぬきで使ってみたい。楽しんでみたい。人をそれまで縦横に翻弄したり、いい気持ちにしてみたい。

この本では「ことば使い」の寺山さんが、肩の力を抜いて自らの才能をいかにも楽しんでいる。

とのべられています。

その生涯を、命がけの情熱で生き、俳句、短歌、詩、戯曲、小説、エッセイ、ラジオドラマ、評論、演劇、実験映画……と、病床にあっても、旺盛な創造の世界に飛躍し、人生への「質問」を繰返しつつ、若くして他界された寺山氏の豊饒な世界は、何時何時迄も世界の注目を浴び、翔んでいるナウな若者達に迄も、魅力溢れる「遺産」と思われます。

内包するロマン・ファンタジー・メルヘンの世界が「ひとりぼっちがたまらなかったら」という原点にたって、中田喜直氏とは、又異なった視点で、大中氏の美しいメロディーで、泌々と展開されたのがこの歌曲集です。

寺山氏の作品の中に、ピアノに関する作品が屢々現れます。

裏町よりピアノを運ぶ癌の父 (花粉航海)

秋は神学ピアノのかげに人さらい (青春句集 秋の曲)

うしろ手に墜ちし雲雀をにぎりしめ君のピアノを窓より覗く (少年歌集 麦藁帽子)

母が弾くピアノの鍵をぬすみきて沼にうつされいわれなりき

けたたましくピアノ鳴るなり滅びゆく邸の^{ガラスド}玻璃戸に空澄みながら (青春歌集 鷗)

「ピアニストを撃て」・「棺桶島と記述する試み(散文詩集)」・殺人鬼、またはショパンの指の瓶詰哲学」……等「ピアノ」という楽器は、常に不吉な暗い翳をはらんで登場します。実験映画の中でも田中美知、J・A・シーザーによる音楽は、短調的であり発展する事なく海のうねりの中に消えてゆきます。(凝音・オペラアリアのSOLO・合唱・尺八・いろいろな弦楽器のはじいた音等を使っている)

寺山作品の中に並ぶ、地獄・遺書・屍・捨子・棺桶・死・発狂・義眼・真赤な櫛…等、無気味な世界と「ピアノ」は親しい交わりを結んでいるのですが、氏にとって、この金属的な音は、決して無関心の代物ではない様です。

「愛さないの 愛せないの」等、寺山修司青春作品集には、前述の一連の不吉な言葉とは一変して海・少女・小鳥・種子・夕焼・モーツァルト・涙・愛・恋等と愛するもの、いとおしいものが氏独得のメルヘンの世界を創ってゆきます。「ひとりぼっちがたまらなかったら」歌曲集のピアノパートは、Dur(長調)とmoll(短調)の間をゆらめきつつ軽妙なりズム・やるせないシンコペーション・水々しい転調・優しい女性終止で、切なくほゞえましく流れてゆきます。

作曲家(1924～)と作詩家(1935～1983)は、共通の時代背景を持ちながら思想は全く異なるものですが、その接点の一つに、二人共幼ない日、ひとり子の鍵っ子であった事が浮かんできます。大中氏の方は温い家族に包まれた甘酸っぱい孤独感であり、寺山氏の方は、5才の時、出征・戦病死をとげる父との永久の別離があり、終戦5日前に母と共に青森の上空襲で焼け出されて後の長い放浪の日々があり、貧しさの中で働く最愛の母との別居が12才で始まるという苛酷凄惨な孤独が存在しています。その孤独からの逃避の地平線の上に、幻の様な甘い夢が広がっていったのでしょうか――。

一方、ジャイアンツに憧れた二人の野球少年は活々と少し性急なりズム感を楽しませてくれます。けれども最大の接点は、人生にかける仕事への創作への執念といえましょう。

62才の大中氏は長年育まれたコール・Megの解散により、新しい課題を自分に課してゆかれますし、寺山氏に至っては他界の年、「寺山修司の戯曲」第2期を企画、詩集「書見機」のまとめ、絶筆の「墓場まで何マイル」を書き、唐十郎作「佐川君からの手紙」の脚本を引受け、尚、劇団公演の「邪宗門」の書きかえ等、すさまじい仕事記録されているのには驚き入ってしまいます。

この歌曲集が泌々と伝えてくる感動と格調の高さには、この様にひたむきな人間の生きざまが根太いバックボーンとして存在しているからだと思います。

1989年4月5日

作品の特色

- 1) 海 詩23曲の内、12曲は故郷東北の朝夕・四季の海が背景にある為、作曲者は波の多様な表現に、様々な音型を使っている。



ひとりぼっちがたまらなかったら



海の起源に関する一章



てがみ



かなしくなったときは



かなしみ



ぼくが死んでも

- 2) 歌曲集の詩は一つの物語を連ねているのではないが、女声（ソプラノ）と男声（バリトン）が巧みに組みあわされ、コミカルな曲と語りかける曲が「あなたへ」他者に「わたしに」（自己に）問いかけを繰返して「死」と「忘却」に導びかれてゆく。
- 3) 曲首には「速度標語」のみで「発想標語」は用いられない。演奏者の自由に任されている。
- 4) 一つの歌曲の中で、調号による転調は2曲しかないが、臨時記号による変化は多彩で、同主長調・短調への移行は屢々行われている。
- 5) 一つの歌曲の中で、速度の変化（23曲中11曲）拍子の変化（23曲中10曲）は非常に多い。
- 6) 音楽は、流麗に、自然に流れてゆくが、legatoに演奏する為には「指使い」の工夫が大変重要である。

例「ひとりぼっちがたまらなかったら」楽譜に記入参照。

ひとりぼっちがきたまらなかつたら

Andantino

• 短い5小節の前奏の中で、拍子の変化と4オクターブにわたる音域の広がりがある。

• 間いかける様なやさしさを持ったモチーフは発展せず曲尾でのみ使われる。

• 5小節の前奏は巾広く音色の多様性を要求している。

〔P〕 Bassの単音のメロディーは全曲にわたって使われる。 Aの形

〔P〕 Bassの単音のメロディーは全曲にわたって使われる。 Bの形

♩ ♩ ♩ 全曲にわたって使われるリズム形 Cの形

だ から わ た し は い つ ま で も

f *mf*

L.H R.H L.H

Aの形

Vo Dの形 細かい音符の刻むリズム形

ひとり で は な い そ う い い か せ な が ら い ち に ち じ ゅ う

p

Bの形 Cの形 Cの形

お き の か も め を - み て い た ひ も あ っ た -

mp *rit.* *p*

mp *p*

rit. Cの形 Aの形

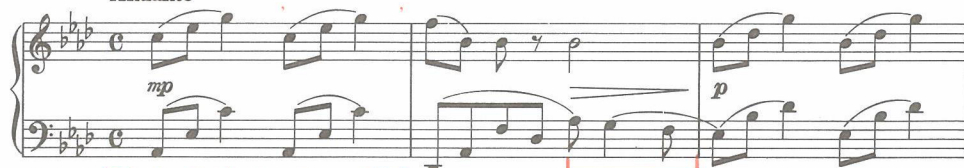
SOS-Red

冒頭のA→Cの動きが反進形で現れる。

- ☆A・B・C・D のリズム音型は全曲に渡って使われる。
- ☆Soprano と Baritone の二重唱の曲としても演奏される。

て が み

Andante



〔P〕アーティキュレーションに注意

Cの形



Dの形

C'

Eの形 アルベジオ

・音楽は「語り」から「メルヘンの世界」に軽妙に変化する。



〔Vo〕音質の変化・少し明るく軽く
〔P〕しなやかな音質で。



〔P〕低音とメロディーが対照的に載れる。

〔Vo〕 大切な休止

mp

3

mf

ひとがさかなとよぶものはー みんなだれかの

mp

mf

〔Vo〕 切り方に注意
〔P〕

Fの形

rit. - - - a tempo

p

てがみですー

rit. - - - a tempo

p

C'

pp

・アーティキュレーションに細心の注意を払って演奏する事。

・Fの形 突然の沈黙 ☹

「ある日」「見えない花のソネット」「ぼくが死んでも」にも用いられる。

・Eの形 アルペジオの音型

旋律 「永遠にあこがれたら」「幸福が遠すぎたら」「世界の一番遠い土地へ」「劇場」等

曲尾 「かなしみ」「幸福が遠すぎたら」「海が好きだったら」「ヒスイ」「世界の一番遠い土地へ」

「かなしくなったときは」「ぼくが死んでも」「種子」「忘却」等を使用。

・拍子の変化はなく、音符の形 を変化させて曲想をリズムカルにコミカルにしている。

例「ある日」

かなし み

Moderato

- ・拍子の変化 C=4拍子から $\frac{3}{4}$ への転調は多い「ひとりぼっちがたまらなかった」「かなしくなったときは」
- ・Durとmollの間をゆれ動く。〔P〕暗い音色で少し重く。

わたしのかくしのなかには いつも いえがあるー

〔Bの形〕 Bassの単音

〔1〕4小節Tempoで〔2〕4小節 心の中で一人言の様にTempoは少し落として囁く様に。

だがわたしは ほんとは いえなきこー

- ・前奏で行った Dur moll の動きが拡大され、4小節フレーズで現れる。

〔1〕〔2〕〔1〕〔2〕〔1〕〔2〕

〔1〕 Dur
〔2〕 moll

わたしのかくしのなかには いつも おんながいるー

(SOS・Ped)

(SOS・Ped)

p だがわたしは ほんとは ひとりぼっち — —

p 2

mp わたしのかくしのなかには *mf* ことがすう わ だが

1 *mp* *mf* 2

Dの形 細かい音符で おしゃべり 歌と伴奏のリズムの組合せ

mp わたしは ほんとは *p* おもいでがきらいなの だ

mp *p* 転調

Eの形

mf いっぺんのしの うちとそとにしめだされて

mf *mf* Cの形

[P] Tempoを整えてこの形はダイナミックに。
「かなしくなったときは」「ぼくが死んでも」にも用いている。

[P] ピアノの旋律をアリアの様に歌って

・美しい転調は「絵」の様である。

rit. - - - - *Andantino*
mp

わ た し は だ ま っ て う み を み て い る

rit. - - - - *mp*

〔P〕 legato に演奏
半音変化

mf *mp* *rit.* - - - - *fp*

わ た し は だ ま っ て う み を み て い る

mf *mp* *fp* *rit.* - - - - *p*

Des:

〔P〕 少し早く入って
7 の休止符を同じに扱わぬ事。

〔P〕 少しゆっくり

- ・前曲と対照的にフレーズが長く、スラーによるアーティキュレーションも単純におさえている。そして前半の傑作。
- ・速度・拍子の変化に加えて転調を臨時記号で行い、心のゆれうごく哀しみを表現している。
- ・転調「永遠にあこがれたら」「見えない花のソネット」「半分愛して」にも使用。
- ・「かなしみ」「もんだいは」同じ事を詩人は語っているが、前者は内省的であり私が「わたし」に話しかける、後者はリズムで「あなた」に呼びかけている。

作品の特色（音型）

23曲の一貫性を図るために、同じ音型・リズムを用いている。

1) シンコペーション（リズム）

たなどうたわず いつものように

ぼくが死んでも

シンコペーションを強く使わず
柔らかな溜息の様なリズムとし
て旋律にも伴奏にも使っている。
単音であったり、和音であった
り幅広い表現力を持っている。

2) アルペジオ（奏法）

うみのように おいやすいの で

忘却

アルペジオは伴奏の中で旋律に
も、伴奏形にも終止にも多用さ
れ、曲想を華麗に、神秘的に表
現してゆく。

3) オクターブの旋律のアリア・間・音域の拡大

わたしはだまっ て うみをみている

わたしはだまっ て うみをみてい る

かなしみ

- ① ピアノパートにも歌と同じく、オクターブのアリアの様な旋律がある。
- ② 波形の音型は様々な形で表現される。
- ③ 美しい転調。
- ④ 之は明示されているが、音楽の「間」は各曲に於て要求されている。
- ⑤ 音域の広がりは主に〔P〕で、余韻を大切に作曲されている。

ひとり

Allegretto

モチーフ〔P〕指先たてて前に突き気味のタッチで い ろん なとりが い ま す

〔P〕明るく軽やかな音で 左手和音はつかみあげる様なタッチで

〔P〕丸い感じの Staccato あ お い と り あ か い と り わ た り ど

p Dの形

り こ ま ど り む く ど り も ず つ ぐ み

R.H.

Moderato 〔Vo〕モチーフの反進行拡大形

でも ぼ く が い つ ま で も わ す れ ら れ な い の は

〔P〕ひじを楽にして円やかな音で legato に。

〔P〕 オクターブによるモチーフの反進行拡大形

mp

rit. - - -

〔P〕 アリアの様に伸びやかな音で 「かなしみ」と同じ効果。

Andante

p mf mp

ひとり というなの とりで

p mf p

• 間が大切

p

- 長い「ヒスイ」を囲んで「もんだいは」と「ひとり」コミックな曲が歌曲の流れを絶妙に連ねてゆく。
- 拍子の変化 $\frac{2}{4}$ 拍子の軽やかさから、 $\frac{6}{8}$ 拍子の滑らかに語るリズムに変化し、moderato の Tempo の中で旋律は曲頭モチーフの反進行の拡大形で現われる。
- Andante $\cdot \frac{4}{4}$ 拍子・Bass の P の進行で一番語りたい詩がゆったりと語られる。
- 拍子・速度標語同時に変化する曲「ヒスイ」「見えない花のソネット」「種子」「ぼくが死んでも」等。Allegretto Moderato Andante と段々 Tempo はおそくなる。
- 「ひとり」「恋のわらべ唄」詩人は言葉を楽しみ、作曲家はリズムを心ゆくまで楽しんでいる。タッチは音符の「間」を楽しみつつ魅力的に。

世界のいちばん遠い土地へ

Moderato ♩ = 90 位

mp

♩ = 58 位

(rit. - - - -) **Adagio** *mp* [Vo] 音色は暗く重く Adagio の部分を一番大切に

いっ ぽん の き は れ き し で は な く て お も い で で あ

rit. - - - - *mp* C の 形

8va-----

[P] よくあわせて

[P] トレモロ「汽車」と同じく緊張感のあるものに使っている。

p

る い ち わ の と り は き お く で は な く て

p

[P] アルペジオの旋律、ピアノの方を出して。

[Vo] [P] 休止符

Andante *mp*

あ い で あ る ひ と り の た ん じ ょ う は け

mp

Tempo の変化と踊る様なリズムミカルなフレーズが突然現れる。

• Ariaの様な伸びやかな 2 小節。

〔Vo〕と対照的に〔P〕アーティキュレーション大切に。

〔Vo〕は *mp* 〔P〕は *p* のバランスで「なぜだか」を活かしている。

〔Vo〕と〔P〕のディナミックは全曲中ここのみ異なる。

- 精神的に深い詩を一度も「*f*」を使わず表現することが、難しい。人間性が問われる曲。
- Moderato・Andante・Adagio の Tempo の変化と詩の世界が溶けあっている。
- Adagio 全曲中一番重厚な部分、他の部分はこの Adagio のためにある。
- Andante はリズムカルなフレーズ、Aria の様に伸びやかなフレーズと多採に変化する。
- 広い音域を用いる事によって作品の巾を拡大している。

種 子

Moderato

[P] Staccatoの練習曲の様にユニゾンで動く。ピアノのパートとしては日本歌曲の中で珍しい形。

きみは—あれ はてたとちに で も たねをまく こ とがで き る

[P] 指づかい工夫

[Vo] リズムの中に巧みに入れる。

か きみは はなの さかない こきょうの なぎさに で も たねをまく こ

とがで き る か きみはな がれる みずの なかにでも たねをまく こ

[P] 確実なリズム感で non legato. Staccato と対照的に。

とが でき る か た と え せ かい の お わ り が あ す だ と し て も

たねをまくこ と が でき る か

[P] *leggiere* タッチで一息に上昇する

Andante [Vo] Aria の様にたっぷりとした声で。

こ い び と よ たねは わ が あ

• 速く

• ゆっくり

[P] 歌手に充分歌わせる様に。アルペジオの *Tempo* に注意。

い

a tempo

a tempo

p

pp

[P] 速いアルペジオで
きっちり終わる。

・「恋のわらべ唄」の浮き浮きした調子のいい2拍子、「半分愛して」のAdagioの告白に続いて確実性のあるmareatoの「問いかけ」が曲をひきしめてゆく。

ぼくが死んでも

Andante

• 前打音は Tempo にあわせて少しゆっくり。

ぼく が し ん で も う

[P] 短いフレーズの間に広い音域を持つ。
e moll の [E] 音をあまり強調しないで。

た な ど う た わ ず い つ も の よ う に ドア を は ん ぶ ん あ け と い て く

• 指づかい

C の 形

[P] 「死」がドアを叩く様な音。

れ [P] *legatissimo* 柔らかい音。 そ こ か ら あ お い う み が み え る よ う

[P] 休止符は様々に表現を。

[Vo] [P] 印象的な休止符。

E の 形

poco a poco - - - **Andantino**

に い つ も の よ う に オ レ ン ジ

poco a poco - - -

[P] > なしで

[P] 柔らかい音を出したいので、和音の指づかい注意。
「かなしくなったときは」と同じ音型。

むいて うみのおとなり かぞえておく

〔P〕 Ped 深く指のタッチは浅く「海のおとなり」を。

rit. - - - - - *mf* - - - - - *mp* Tempo I

れ - - - - - そこからあおいうみが

rit. - - - - - *mf* *mp*

L・H R・H

SOS・Ped

〔P〕 ひびきを大切に。

Eの形


〔P〕

p *pp*

みえるよ うに - - -

〔P〕 同じ音型・エコーの様

〔P〕 EとHのハーモニー。

- 全曲中最高の傑作でしみじみとした感動に包まれる。
- **〔Fの形〕**  「てがみ」「ある日」「花のソネット」にも使っている。
- 23曲中傑作の一つ。しみじみとした歌（無音の中に秘められた情感を）。

参考資料（大中 恩）

- 1) 『大中恩の作品を知るために女声合唱団による大中恩作品研究会資料』 T. C. F. 女声合唱団編
- 2) 1975・1977・1980・1985・1986・1987・1988年「歌曲の夕べ」・「作品の夕べ」・「コール・Meg 演奏会」のプログラム
- 3) 「海道東征」『戦友 歌につながる十の短篇』より，阪田寛夫 文芸春秋
- 4) 「あの影は渡り鳥」 阪田寛夫，1979年（昭和54年）12月，『文芸春秋』150号より 文芸春秋
- 5) 『大中恩とその作品 日本歌曲全集（14）』 畑中良輔 ビクター音楽産業株式会社
- 6) 『日本の作曲家「大中 恩」』 山本金雄，1983年 音楽の友・音楽芸術（別冊）
- 7) 作曲家との対話：1975～1978年 新日本出版社

1983年7月29日 「大中恩公開講座 現代こどもの歌秀作選『いぬのおまわりさん』」

於 京都カワイピアノセンター

1985年7月1日 「第31回ぐるーぷ・なーべ（大中恩作品の夕べ）」 於 東京イイノホール

1988年5月7日 「第2回大中恩 歌曲の夕べ」 於 名古屋電気文化会館コンサートホール

1988年5月28日 於 大中恩氏自宅 土肥みゆき訪問

1989年3月18日 於 大中恩氏自宅 土肥みゆき訪問

参考資料（寺山 修司）

- 1) 『寺山修司 青春作品集』 東京新書館
 1. 童話（赤糸で縫いとじられた物語） 2. 童話（はだしの恋唄） 3. エッセイ（ひとりぼっちのあなたに）
 4. エッセイ（さよならの城） 5. 童話（時には母のない子のように） 6. 詩（愛さないの愛せないの）
 7. 少年歌集 麦藁帽子 8. 巨人伝・ほらふき男爵
- 2) 『寺山修司 全詩歌句』 思潮社
- 3) 『寺山修司 地獄篇』 思潮社
- 4) 『寺山修司評論集 死者の書』 土曜美術社
- 5) 現代詩文庫『寺山修司詩集』 思潮社
- 6) 『寺山修司 鏡の中の言葉』 三浦雅士 東京新書館
- 7) 『さかさま世界史（怪物伝）』 寺山修司 角川文庫
- 8) 『寺山修司監督作品 上海異人娼館 制作ノート』 1981年11月 イメージフォーラム
- 9) 「現代芸術の転換は可能か」 今井裕康（寺山修司）『カイエ（特集80年代芸術に向けて）』 冬樹社
- 10) 寺山修司 実験映画及びカタログ，1989年2月25日 於 大阪市扇町ミュージアムスクエアコロキウム
檻・トマトケチャップ皇帝・ジャンケン戦争・蝶服記・ローラ・消しゴム・マルドロールの歌・一寸法師を
記述する試み・二頭女・書見機・草迷宮

（原稿受理 1989年4月10日）